

七月は丑の日 八月は寅の日 九月は卯の日
十月は辰の日 十一月は巳の日 十二月は午の日
此日は神を祭り婚禮、種蒔、井戸掘、造作、萬事吉、
然し金錢を出す事又は財産整に掛るは凶

破日

此日はヤブルと訓じ又遊激と云ふて斗柄と相對斜して衝破すると云ふ意味である

正月は申の日 二月は酉の日 三月は戌の日
四月は亥の日 五月は子の日 六月は丑の日
七月は寅の日 八月は卯の日 九月は辰の日
十月は巳の日 十一月は午の日 十二月は未の日

此日は訴訟、談判、相談事はよし、然し神、佛を祀り旅行、動土、祝事、何事も悪し

此日はアヤフと訓して斗魁の前辰に當る即ち斗魁とは申を云ふのである

五月は酉の日 二月は戌の日 三月は亥の日
四月は子の日 五月は丑の日 六月は寅の日

七月は卯の日 八月は辰の日 九月は巳の日
十月は午の日 十一月は未の日 十二月は申の日
此日は酒造り初めるにはよいが其他種蒔、普請、神を祭るは凶である

成日

此日はナルと訓じて斗柄と相對して一名主記と云ふのである

正月は戌の日 二月は亥の日 三月は子の日
四月は丑の日 五月は寅の日 六月は卯の日
七月は辰の日 八月は巳の日 九月は辰の日
十月は未の日 十一月は申の日 十二月は酉の日

此日は神を祭り普請、造作、柱立、動土、種蒔、婚禮、移轉等に用ひて吉であるが訴訟事は悪い

納日

此日はオサンと訓して一名天倉とも云ふて萬物を納め入れる自然の理あると云ふ

正月は亥の日 二月は子の日 三月は丑の日
四月は寅の日 五月は卯の日 六月は辰の日

七月は巳の日 八月は午の日 九月は未の日
十月は申の日 十一月は酉の日 一二月は戌の日
此日は五穀取り納め、買入れ等凡て取入る事皆吉であるが神を祭り婚禮の見合には凶である

開日

此日はヒラクと訓じて居る天の使ひが神命を受て險を開き後ちを通すと云ふ

正月は子の日 二月は丑の日 三月は寅の日
四月は卯の日 五月は辰の日 六月は巳の日
七月は午の日 八月は未の日 九月は申の日
十月は酉の日 十一月は戌の日 十二月は亥の日
此日は門を立て、井戸掘り、造作、建築、旅行、婚禮皆よろしいが葬式及び總て不淨事はわるい

閉日

此日はトヅと訓じて一名嘆星とも云ふて諸事閉止する處である

正月は丑の日 二月は寅の日 三月は卯の日
四月は辰の日 五月は巳の日 六月は午の日

此下段も中段と同じく陰曆には載せてあるが陽曆には之を載せない然し其吉凶に至つては矢張り中段と共に古來重要視せられたものである左に之れが詳解を施こしたれば宜しく熟讀の上其吉凶を知らるべし又此の下段に鬼宿と云ものを入れてある暦本がある然しこれは下段の本質ではない又●を入れて俗に黒日と云ふのがある之れを忌み嫌ふが之も其實は下段の本質ではない之れは朔望を現はしたものであるが夫れが何時頃よりか謂れなくして下段に入れたもので大して恐れるにはあたらぬ然し朔望は月の一日十五日の事で月の

満欠の極であるから最も敬慎せなくてはならぬ故に萬事に注意は大切であるが然し其●が途方もない處につけてあつたりするから之れは用ひぬがよい故に朔望を以て注意すれば宜しいのである又暦に依ては受死日を●としてあるのもある之れは本詳解の受死日を以て撰日すれば宜しい但し皆舊暦である

受死日

此の日病ひを得れば必ず重患となる、大凶日故何事にも用ひてはならぬ
正月は戌の日 二月は辰の日 三月は亥の日
四月は巳の日 五月は子の日 六月は午の日
七月は丑の日 八月は未の日 九月は寅の日
十月は申の日 十一月は卯の日 十二月は酉の日

十死日

此日は暦に士しとかきて大凶日である
殊に婚禮、葬禮、善惡共に忌む

舊の正月、四月、七月、十月、は酉の日に當る二月、五月、八月、十一月、は巳の日に當る三月、六月、九

月、十二月は丑の日に當りて大凶日である

五墓日

此日は五行十二運と云ふ推運學の内の墓運に相當する日であつて五の字を冠されたのは五行に涉つて居ると云ふ意である動土、葬禮、地がため、柱たて、種まき等を忌む
戊辰日は納音の土性の人は五墓日、丙戌日は火性の人には五墓日、辛未日は金性の人には五墓日に當る
此の五墓日は人々によつて違ふのであるから注意を要す然し日にも五墓日を付ければ月の納音と日の干支を右の表に依つて數へて知るものである

歸忌日

此日は一名歸亡日と云ふて旅より家に歸り嫁を迎へ移轉及び金錢の貸出し等を忌む日なり

舊の正月、四月、七月、十月は丑の日●二月、五月、八月、十一月は寅の日●三月、六月、九月、十二月は

復日

此日はあと戻りする意にてかへると云ふ意味にざるのである

正月七月甲日と庚日である二月八月乙日辛日である三六、九、十二月は戌日と己日である四月十月は丙日と壬日である五月十一月丁日と癸の日である、旅立又金錢貸出すに吉然し婚禮、葬禮、貰子等には凶

天火日

此日は、天火、狼籍、五貧と云ふ三つ

●舊正月五月九月は子の日●二月六月十月は卯の日●三月七月十一月は午の日四月八月十二月は酉の日

地火日

此日は實は中段十二建の平日と異名一理の者である即ち舊暦の五月巳日

子の日が歸忌日に當る
此の日は天亡星の精である一歸忌、二歸化、三天小女四歸來と云ふ四神が、丑寅子の日に天より降つて人家の門に居り歸る人を防ぐと云はれて居る之れは道家の説から出て佛家のは是を唱道したのである
血忌日
此日鍼灸をなし膿血をとり鳥獸を殺し血を出せば災を起すと云ふ

正月は丑の日 二月は未の日 三月は寅の日
四月は申の日 五月は卯の日 六月は酉の日
七月は辰の日 八月は戌の日 九月は巳の日
十月は亥の日 十一月は午の日 十二月は子の日

重日
此日は陰陽重なる故重日と云ふのである、
金銀を求むるに大吉婚禮葬禮は忌む
舊暦毎月、巳の日亥の日は重日に當る（但し暦にはちう日と多く記してある）

墓たて葬禮など皆凶である
歳下食日 此日は儀物の口を開き初め種を蒔
き始め草木を植ゆるなど忌む
子年は丁丑日、丑年は庚寅日、寅年は丁卯日、卯年は壬辰日、辰年は丁巳日、巳年は丙午日、午年は丁未日、未年は庚申日、申年は丁酉日、酉年は丙戌日、戌年は辛亥日、亥年は庚子日である

●大禍日と狼籍日と滅門日

各人生れ年によつて毎月撰日法が違ふ萬事に用ひて凶である殊に佛事には至つてわるい

- 正月 寅年生の人は亥日大禍、子日狼籍、巳日滅門
- 二月 卯年生の人は午日大禍、卯日狼籍、子日滅門
- 三月 辰年生の人は丑日大禍、午日狼籍、未日滅門
- 四月 巳年生の人は申日大禍、酉日狼籍、寅日滅門
- 五月 午年生の人は卯日大禍、子日狼籍、酉日滅門
- 六月 未年生の人は戌日大禍、卯日狼籍、辰日滅門
- 七月 申年生の人は巳日大禍、午日狼籍、亥日滅門
- 九月 戌年生の人は子日大禍、酉日狼籍、申日滅門
- 十月 子年生の人は酉日大禍、午日狼籍、卯日滅門
- 十一月 戌年生の人は寅日大禍、卯日狼籍、戌日滅門
- 十二月 子年生の人は酉日大禍、午日狼籍、卯日滅門

右の大禍日には人を訪問して凶、狼籍日に慈善を施さず、滅門日に學問をなさずと云ふ

時下食

此日も毎月次の干支の日に當る戌午
刻の吉凶である次の表を見よ

- 正月未日亥時 ●二月戌日子時 ●三月辰日丑時 ●四月寅日寅時 ●五月午日卯時 ●六月子日辰時 ●七月申日巳時 ●八月酉日午時 ●九月巳日未時 ●十月亥日申時 ●十一月卯日酉時 ●十二月卯日戌時に當る。此時刻は勿論昔の時刻で當今の夜十一時から午前一時迄が子の刻で

大明日

此日も毎月次の干支の日に當る戌午

己巳、庚午、壬申、癸酉、丁丑、	壬寅、甲辰、乙巳、丙午、丁未、己酉、
己卯、壬午、甲申、癸酉、丁丑、	辛亥、丙辰、己未、庚申、辛酉、
己酉、己亥、庚子、辛丑、癸卯、乙卯、己未、庚申、	壬寅、甲辰、乙巳、丙午、丁未、己酉、庚戌、
辛酉、癸亥、以上日の日毎月神吉日である此日は神事、	此日は最大の吉日である建築、移轉、出行、婚禮諸事障なし、但し他の凶日と同日なれば中吉である

往亡日

此日は舊曆にて見る凶日で正月七日二月十四日、三月二十一日、四月八日、

神吉日 此日は年中左の日に當る乙丑、丁卯、己卯、壬午、甲申、癸酉、丁丑、己酉、己亥、庚子、辛丑、癸卯、乙卯、己未、庚申、辛酉、癸亥、以上日の日毎月神吉日である此日は神事、祭禮遷宮新たに神棚を造るなど總て神を祭るによし又先祖祭に用ひて吉である

母倉日

此日は吉日で十二支相生の日で普請、造作、婚姻等に用ひて吉福あるが凶日と

新暦を用ひて月毎の吉日表											
るか月より替へる月の節替											
十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子
へつ ノち 日の 日	と の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	と つ み の ノ の 日	へ き の ノ の 日	へ つ の ノ の 日	と か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	さ つ の ノ の 日	さ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	吉
へ み の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	へ か の ノ の 日	神
と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	と き の ノ の 日	天 徳
月 合 月 合 月 合 月 合 月 合 月 合 月 合	月 合 月 合 月 合 月 合 月 合 月 合										
へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	へ み の ノ の 日	へ ひ の ノ の 日	へ か の ノ の 日	生 氣
い ぬ ノ 日	そ り ノ 日	ね ノ 日	じ ひ ノ 日	う ま ノ 日	た つ ノ 日	う な ノ 日	う ま ノ 日	う し ノ 日	う な ノ 日	う し ノ 日	上 の 表 は 總 て 新 暦 の 月 の 節 替 を 用 ひ な さ い 、 此 内 の 五 吉 神 の 日 は 何 人 も 普 請 、 旅 行 、 婚 姻 、 開 業 、 醫 者 を 迎 ひ 、 試 驗 を 受 け る 等 に は 最 大 吉 日 あ る 又 生 氣 の 日 は 種 蒔 草 木 の 植 付 、 賣 買 新 規 事 を 始 む る に 最 大 吉 日 あ る ゆ ゑ 此 日 を 用 ひ て 事 を 爲 ば 成 功 す る 事 を 疑 ひ が な い

説明

上の表は總て新暦の月

の節替を用ひなさい。

此内の五吉神の日は何

人も普請、造作、移轉

旅行、婚姻、開業、醫

者を迎ひ、試験を受け

る等には最大吉日であ

る又生氣の日は種蒔草

木の植付、賣買新規に

事を中心するに最大吉日

であるゑゑ此日を用ひ

て事を爲ば成功する事

疑ひがない

月は己午の日に當る、四月五月寅卯の日、七月八月丑未辰戌の日、十月十一月は申酉の日に當るのである

此日は毎月五日間づゝ吉日と定められる毎月甲子より五日間、己卯より五日間、己酉より五日間である

天恩日 てある又凶日と合すれば中吉、何事も用ひてよし福德を受くる

天赦日 は最大吉日である

此日は干支の相生相剋の中を得る日で何事にも用ひて吉である、殊に婚姻に

春立春戊寅日 である

秋立秋戌申日 である

冬立冬甲子日 である

大空亡日 は最大吉日である

夏立夏甲午日 は最大吉日である

- 一月三日、十一日、 ●四月四日、十二日、
- 七月十九日、廿七日、 ●十月二十日、廿八日、
- 二月二日、十日、 ●五月五日、十三日、
- 八月十八日、二十六日、 ●十二月廿一日、廿九日、
- 三月一日、九日、 ●六月六日、十四日、
- 九月十七日、二十五日、 ●十一月廿二日、三十日、

毎日天氣豫報

● 東京中央氣象臺の毎年の天氣觀測法に基きて豫測したるものなれば其地方により多少の差異は免がれない
● 甲子の日 曇り勝である、或は多少の降雨あらん
● 乙丑の日 晴れにして時々曇ることあり
● 丙寅の日 曇り勝である、或は多少の降雨あらん
● 丁卯の日 晴れなり、もし降雨あるとも長降りせず
● 戊辰の日 風ありて晴、或は曇ることあり
● 己巳の日 時々曇りて風ふく
● 庚午の日 晴れなれども風烈し
● 辛未の日 曇りにて風あり、もし雨降れば終日降る
● 壬申の日 晴なれ共時々曇るもし雨降るも長降せず
● 癸酉の日 曇り勝なり、或は多少の降雨あり
● 甲戌の日 晴れ、或は少しく曇
● 乙亥の日 風ありて晴れ、もし降雨あるも長降せず

● 丙子の日 晴天なれども、所により多少の雨を見る
● 丁丑の日 曇りにて多少の風あり
● 戊寅の日 晴れなり、もし降雨あるも直ちに晴る
● 己卯の日 晴れ時に曇りて雨模様あり
● 庚辰の日 風ありて晴れ、もし雨あらば翌日迄降る
● 辛巳の日 曇り勝である此日雨降出さば長雨となる
● 庚午の日 晴れなれども時々はれる
● 丙未の日 風ありて晴るもし雨降るも午後に晴る
● 丁未の日 曇り勝である此日雨降出さば長雨となる
● 戊申の日 晴れなれども多くは晴れとなる
● 丙酉の日 風降らざれば曇りて風あらん
● 丙戌の日 曇りにて雨模様なり、或は大風あらん
● 甲申の日 晴れなれども多少の風あり
● 乙酉の日 風降らざれば曇りて風あらん
● 丙戌の日 曇り勝にして陰鬱の日である
● 甲戌の日 晴れなれども多少の風あり
● 乙亥の日 晴れなれども時々曇る。

● 壬辰の日 雨模様にして風あり
● 癸巳の日 雨模様なれども多くは晴となる
● 甲午の日 晴天なれば風烈し又雨降れば直ちに晴る
● 丙申の日 曇天にして後晴り、或は雨模様となる
● 丁酉の日 晴天なれば風あり或は多少の雨降る
● 甲戌の日 曇天なれば風あり或は多少の雨降る
● 丙戌の日 曇天なれば風あり或は多少の雨降る
● 丁未の日 曇天にして風あり
● 戊辰の日 晴天なれば風あり然し多くは雨模様なり
● 丙午の日 曇天にて風あり、もし雨降れば終日降る
● 甲辰の日 晴天なり、もし降雨あるも直ちに止む
● 乙巳の日 曇り勝にして風あり、或は降雨あり
● 丙午の日 晴天にして少時曇ることある

● 丙午の日 晴天にして風あり或は多少の雨降る
● 丁未の日 曇天にて風あり、もし雨降れば終日降る
● 戊申の日 晴天にて風あり或は降雨あるも長からず
● 丙午の日 雨模様なるも風ありて晴天となる
● 甲辰の日 風あれば晴天なるも多くは雨模様なり
● 乙巳の日 晴天なれば風強し
● 丙午の日 雨模様にして風ありもし雨降れば長降す

●相場の鑑定法

此相場観測の秘訣は世間普通に行はる、撫難の豫測法とは異なり著者は知人の爲に本法を示して屢々奇利を得せしめし眞に古今未發の秘傳である即ち毎月舊の朔日を中心として其月中の高低を觀測するのである

●子の朔日、前月の止め直より當月初相場高直の時

●此月は下げ相場である、相場の足は度々上直を呈して遂に月末に至り下直となる、假令不時の變動ありて一旦上ることあるも月初の寄附直までには必ず戻るものである、大手なごの人氣引立の策を立てゝ一時は上がり氣味あるも、つまりは下直を這ふものである、又二十一日までの中に下直を見れば、月末は大下となる●又前月の止め直より安直の時は十五日より廿五日迄の間に天井直を出し、それより十日頃の相場に戻るのである、五日は高く、十日は安く、十二日は高く、廿五

なく、唯景氣を見せるだけである

●寅の朔日 前月の止め直より此月初相場高直の時

此月の相場は兎角高下何れか一方に傾きて引戻しある相場である、時々小變動ありて上十日上りならば中十日下り又下十日上る、上十日上りならば中十日上りて下十日下るのである●又前月より生れ値安直の時の相場は幅大きく下げ相場である即ち一寸上の様子を見せては大きく下るのである、大勢はつまり下げである●又前月の止め直と生れ値同じ時の相場は月始めは兎角景氣付かず餘り大した高下もないが月中過ぎに至りて大變動ありて大に注意を要する相場である

●卯の朔日 前月の止めより此月の初相場高き時

此月の相場は時々不意の變動ありて上りそうに見えて段々下るのである多くは上半月片上りにて下半月は片下りである、且つ日々の足取りも小足ではない●又前月の止めより生れ値安直の時の相場は月始めは持ち合

にて月末になる程高直となる又上半月の相場がデリヂリ上りなれば月中過ぎには大高下ありて突飛な高直を出すことがある●又前月の止めと變りなき時の相場は至つて動き少なく又不時の變動もなく大體大持合である

●辰の朔日 前月の止めより生れ値の高き時

此月の相場は上十五日間は段々高く下十五日間は段々下るのである、又月中に不時の大變動あるも其足取りの工合によりては廿日前後に月中の底値を出すのである●又前月の止めより安直の時の相場は上十五日間は餘り大なる變動なきも月中より少しづゝ動き廿五日前後に月中の高直を出し尙ほ上らんとする様子を見せるも月中は上ることはない●又前月とさしたる變りなき時の相場は月末に至りて月中の高直を出す、されど相場は小さき故大上りはなく少しづゝデリ／＼上るのである、然し十三日に寄附より上値を出せば月末は大下りとなり、即ち是が月中の高直である

日は上ることがある●又前月の止めと同じ直の時月初め保合相場にて二日ほど上りては二日程下ると云ふ相場である月中頃よりデリ／＼上り月末に最も高直あるとを知るがよい、但し十二日は高く十四日は少しく高く、十八日は大下落することがある

●丑の朔日 前月の止め直より當月生れ直高き時

此月の相場は上りそうに見えて中々上らず大した波瀾もなく何時とはなしに片下りにて月初めよりは月末の方が安い、但し十六日に大下りありて、二十四日は稍上直を出すがある●又前月の止めより當月生れ直の安き時の相場は烈しき高下もなく何時とはなしにデリノード上りて月末に至りて此月中の高直を出でるのである、但し十四日は上り、十六日に月中の高直を出し、廿四日も亦上るのである●又前月の止めと同じ時の相場は大高下ありそに見えて大した高下もなく持合ひ相場で時々景氣よく大相場がありそに左程の事は

●巳の朔日 前月の止めより當月の初相場高値の時
此月の相場は月初めに上り一方ならば月中より大下落
がある又月初めに下げなければ月中より大暴騰ありて
變動の多き相場である●又前月の止めより安直の時の
相場は上十日間は一向動かずして持ち合ひである十一
日以後より少しづゝ高下ありて十六日前後に幅大きく
高値を示してそれより月末に至るに従ひ下値を呈する
のである●又前月の止直とさして變りなき時の相場は
上りも下りも餘り目に立たず徐々となす故五日目位に
相場の變動がある又廿五日以後には月中の高直がある
●午の朔日 前月の止め直より當月の初相場高き時
此月の相場は大體上りそうに見えてさしたる事なき月
である、十六、十七日頃に寄附より下直あれば月末に
大相場がある●又前月の止め直より安直の時の相場は
大勢至つて穩かに月始めはさしたる事もなく月中十六
日前後に月中の下直を出してそれより浮調子にて月末

は高持ち合ひである、十四日前後に寄附より安直あれ
ば月末は反つて高い●又前月の止め直と同じ時の相場
は月始めに寄附より安直あれば十六日前後に高直があ
る、又寄附より高直あれば反つて月末には大に下る
●酉の朔日 前月の止め直より當月初相場高直の時
此月の相場は上十五日間は段々上げ相場にして十三日
以後に天井直を出すのである、もし十五日後に至り尚
ほ高直あれば月末は益々高い●又前月の止め直より安
直の時の相場は左程の高下なく持合ひである、最も十
日前後に寄附より安直を出せば二十日以後は大に上
がる●又前月の止め直と同じ時の相場は餘り大した變
動はないが月初めより小波瀾ありて上げ下げ何れに片
寄るとも廿五日前後に寄附の直に戻るのである
●戌の朔日 前月の止め直より當月初相場高き時
此月の相場は月始め十日頃迄は段々に下るが大なる下
落はない、十二日頃に底直を見せて再び後戻りをする、

の引直は高直である●又前月の止め直と同じ時の相場
は強弱何れにも片寄らず至つて動き少なく大體上十五
日間は高く下十五日間は安直である

●未の朔日 前月の止め直より當月の初相場高き時
此月の相場は兎角下げるとしても手強く下げ溢るも大
體は下げである殊に廿一日以後は際立ちて下げ足であ
る●又前月の止め直より安直の時は大體に於て幅はな
いが上げ相場である、七日前後から十二日前後に寄附よ
り安直あれば十六日過ぎの相場は上は向きである●又
前月の止め直と同じ直の時の相場は大體は下げであるが
月始めには上げ模様を見せて十五日前後に小變動あり
て廿五六日頃に月中の底直を出すとがある

●申の朔日 前月の止め直より當月の初相場高直の時
此月は至つて變動多く五日目位に小變動がある、上半
月は足取り不定にして十五日前後に寄附より安直を出
せばそれより高くなる●又前月の止め直より安直の時
又二十日頃に寄附より安直時は月末の引は高い●又前
月の止め直より寄附安直の時は月始めは段々に上りて
十日以後に意外の直を見せる又二十日前後に小變動あ
りて寄附より下直あるもすぐ後戻りするのである●又
前月の止め直と同じ相場は兎角片寄したがる風があ
る、月初めに上げ足ならば上げに片寄り、月初めに下
げ足ならば下げに片寄る、しかし廿日過ぎに至れば從
令ひ下るとも寄附より高直を出すとがある

●亥の朔日 前月の止め直より當月初相場高き時
此月の相場はデリ／＼下りとなる、されば日々の相場
に於けるも亦從つて小足である又月末の引けは下直で
ある●又前月の止め直より安直の時の相場は月初めは上
高直を呈するのである●又前月の止め直と同じ時の相場
は十日前後に至りて突發的に上向き相場となる

毎日 の 相場 を 鑑定 する 法

● 甲子 の 日

寄附より少しく安直を見すること
あれども後場に至り上相場となる
場も亦高き相場となる

● 乙丑 の 日

前日より寄附相場高く生るれば、後
當分の高値を出す

● 丙寅 の 日

前場寄附より高くとも、後場には
何となく下げ氣味にて持合ふ

● 丁卯 の 日

此日寄附より段々高くなれば此月
中の天井値を出すことがある

● 戊辰 の 日

寄附よりちり／＼下げ足の時は反
つて上げ相場となることがある

● 己巳 の 日

前日の引値より寄附安ければ後場
は大に上り又高ければ安くなる

● 庚午 の 日

前場に近頃の高値を出せば後場は
反つて安値となる

● 辛巳 の 日

寄附よりして何となく穩かなら
後場は大に高くなる

● 壬午 の 日

寄附の値前日の引値より安ければ後
場は反つて高相場である

● 癸未 の 日

此日晴れなれば安けれど、雨降れ
ば反つて高相場である

● 甲申 の 日

寄附前日より安ければ前場に一押し
ありて後場は大に上るのである

● 乙酉 の 日

大體の相場は弱氣であるが多くは
持合相場である

● 丙戌 の 日

前日より上向きの相場なれば、後
場も亦高き相場となる

● 辛未 の 日

寄附前日より安ければ、後場に當
分の底値を出すとがある
少しく波瀾ある日である、然し多
くは上げ氣味である

● 壬申 の 日

寄附より少しく上げ足なれば後場
又持合なれば翌日下げとなる

● 癸酉 の 日

寄附より少しく上げ足なれば後場
は大に上るのである

● 甲戌 の 日

前日の引より寄附高ければ、後場
は反つて下けである

● 乙亥 の 日

寄附より漸次下げに向ふ氣味あり
て後場に至り持合となる

● 丙子 の 日

相場は引繰りて一變動を生ずる兆
ありて、人氣に反する相場が出る
一時の底値を出して意外の上げを
見せる故注意肝要である

● 戊寅 の 日

寄附前日の引値と大差なければ多
くは持合相場である

● 丁亥 の 日

寄附前日の引値より安ければ後場
は反つて上げ相場となる。

● 己丑 の 日

寄附前日より高ければ一時の底値
を出す日である

● 庚寅 の 日

寄附前日の引値より安ければ後場
が至つて氣乗りのせぬ相場である

● 辛卯 の 日

小波瀾ありて多くは下げ足である
前場大ひに上れば、反つて後場に
少しく下がり近頃の安値を見せる

● 壬辰 の 日

寄附前日の止め値より少しく高け
れば此日大に下げである

● 癸巳 の 日

此日晴天なれば、高持合なれども
雨際れば大に下ることがある

● 甲午 の 日

雨際れば大に下ることがある

●乙未の日
●丙申の日
●丁酉の日
●戊戌の日
●己亥の日
●庚子の日
●辛丑の日
●壬寅の日
●癸卯の日
●甲寅の日
●丙辰の日
●丁巳の日
●戊午の日

前場より上らんとするも上り兼多くは下足となりて當分の底値を出下り、又高ければ上るとがある

寄附前日の引値より安ければ大に下り、又高ければ上るとがある

小波瀾ありて後場に至り大に安い又相場の足は小相場である

持合ひにしてしかも安含みなれば至つて氣乗りのせぬ相場である

前場は持合にして後場に至りて少しく下るも餘り動かぬ相場である

然し不時の事件あれば大に上る大した波瀾もなくして段々に下る

寄附前日の引値より高ければ後場は安く至つて暢び兼る相場である

前場より上げ氣味にして後場に至り其日の高値を出して引には戻る

大體は安氣配なれども、時に突飛な相場を出すことがある

大體は下げ相場に見えて反つて一時の高直を出すことがある

前場は下げなれども後場に至り高直を出す、注意すべき相場である

前場高くして後場は反つて安いともあるが相場は多くは片よる

小さき波瀾變動あるも至つて氣乗りのせぬ相場である

前場の餘波を受けて大に變動あるが此日より當分の相場は片よる

寄附より一寸上げ氣味ありて一様あれども反つて後場は安い

前場に小變動ありてそれより上げ足となり後場に其日の高直がある

意注

●癸亥の日
●壬戌の日
●辛酉の日
●己未の日
●庚申の日
●辛酉の日
●己未の日
●庚申の日
●辛酉の日
●壬戌の日
●癸亥の日
●丙辰の日
●丁巳の日
●戊午の日

直幅大きく往來ありて引は寄附より安く至つて緩やかな相場である

寄附前日の引直より高ければ大に上がり一寸波瀾がある

寄附より少しく下げ氣味にして反つて後場に大に上るのである

晴天なれば大に上るも、雨降れば下ることあるが多くは上相場である

波瀾變動ありて引は反つて高く此日の安直當分の底直となる

寄附前日の引直より安ければ後場も亦安い、小往來のある日である餘り大した變動もなく大體は下げ足であるが突發事件の爲に上る是迄上げ相場なれば安く、下げ相場なれば反つて高いことがある

寄附前日の引直より安直なれば下げ足となりて一時の底直を出す

前場には下らんとする様子を見せて後場は反つて上げである

あるが後場は安いもある

相場に變動のある日なれば小波瀾ありて當分の底直か、高直がある寄附より一時上げ氣味ではあるが大體は安き相場である

曆の上段丙、中段閉の日、庚、破の日、戌、開の日に前日より高直を出下直を出す時は大ひに上るのである

是は東京米穀引所の相場を標準としたれは地方により多少の相違は免れない

●乙未の日
●丙申の日
●丁酉の日
●戊戌の日
●己亥の日
●庚子の日
●辛丑の日
●壬寅の日
●癸卯の日
●甲辰の日
●乙巳の日
●癸亥の日
●壬戌の日
●辛酉の日
●己未の日
●庚申の日
●辛酉の日
●壬戌の日
●癸亥の日
●丙辰の日
●丁巳の日
●戊午の日

前場より上らんとするも上り兼多くは下足となりて當分の底値を出下り、又高ければ上るとある

寄附前日の引値より安ければ大に下り、又高ければ上るとある

小波瀾ありて後場に至り大に安い又相場の足は小相場である

持合ひにしてしかも安含みなれば至つて氣乗りのせぬ相場である

前場は持合にして後場に至りて少しく下るも餘り動かぬ相場である

然し不時の事件あれば大に上る大した波瀾もなくして段々に下る

寄附前日の引値より高ければ後場は安く至つて暢び兼る相場である

前場より上げ氣味にして後場に至り其日の高値を出して引には戻る

大體は安氣配なれども、時に突飛な相場を出すことがある

大體は下げ相場に見えて反つて一時の高直を出すことがある

前場は下げなれども後場に至り高直を出す、注意すべき相場である

前場高くして後場は反つて安いともあるが相場は多くは片よる

小さき波瀾變動あるも至つて氣乗りのせぬ相場である

前場の餘波を受けて大に變動あるが此日より當分の相場は片よる

寄附より一寸上げ氣味ありて一様あれども反つて後場は安い

前場に小變動ありてそれより上げ足となり後場に其日の高直がある

●九星にて相場の観測法

●九星で相場を観測しようと云ふには、其月と日の九星を調べて、次に記す所にて観測するがよい、然し天災時、不時の突發事件等發生の場合は其時の人氣をも併せ考えねばならぬのである。

●一白の月

●九紫の日は、相場の高下變動が激しいが、後場には意外の高直が出る。●八白、五黄、二黒の日は、兎角上げ溢りて段々と下る相場である。●六白、七赤の日は、下げ足を見せることがあつても、上げ相場である。●三碧、四綠の日は、チリ／＼上りの相場である。●一白の日は、變動がありさうで、大したともないのである兎角片づむ相場である。

●二黒の月

●九紫の日は、強弱共に意外の直を出す日である。●八白、五黄、二黒の日は、變動のある相場にして、高下共片づむことはない。●六白、七赤の日は、前場上げ足なれば後場高く、前場下げ足なれば後場は安い。●四綠三碧の日は、相場は至つて小足取りである。●一白の日は、後場一回小戻しあるも多くは下げ相場である。

●三碧の月

●九紫の日は、意外の高直を出すことがある。●八白、五黄、二黒の日は、チリ／＼下りの相場である。●六白、七赤の日は、弱氣配にして、希れには大がらがある。●三碧、四綠の日は、上らんとして上げ溢り、段々下げ相場となる。●一白の日は、持合ひ相場であるが、時に意外の高直を出すこともある。

●六白の月

●九紫の月は、人氣引立たずして、段々に下る相場である。●八白、五黄、二黒の日は、チリ／＼上りの相場故、突發の事件起れば暴騰がある。●七赤、六白の日は多くは持合ひなれども、時には是迄と變つた相場を出す。●三碧、四綠の日は、人氣は一般に弱くして、反つて相場は反対に上る。●一白の日は、人氣も引立ちて前場より高氣配である。

●四綠の月

●九紫の日は、是迄チリ／＼上りなれば、此日に當分の高直を出すことがある。●八白、五黄、二黒の日は、弱氣配なれども下げ溢る相場である。●六白、七赤の日は、人氣を強氣配にして相場は反対である。●三碧、四綠の日は、持合ひにして、涉々しき高下はない。●一白の日は、高持合ひである。

●七赤の月

●九紫の日は、強氣配である、希れには突發事件が生じて暴騰がある。●八白、五黄、二黒の日は、人氣引立てずして、弱氣配である。●六白、七赤の日は、是迄が上げ足なれば大ひに上り、又是迄下げ足なれば大ひに下る。●四綠、三碧の日は、小戻しがあつて、チリ／＼上る。●一白の日は、人氣も引立たずして下げ氣味である。

●九紫の日は、強氣配である、希れには突發事件が生じて暴騰がある。●八白、五黄、二黒の日は、人氣引立てずして、弱氣配である。●六白、七赤の日は、是迄が上げ足なれば大ひに上り、又是迄下げ足なれば大ひに下る。●四綠、三碧の日は、小戻しがあつて、チリ／＼上る。●一白の日は、人氣も引立たずして下げ氣味である。

日は、強氣配にして段々に上る相場である

●九紫の日は、至極弱氣配である●八白、五黃、二黒の日は、人氣は兎角引立たず、持合ひにしてチリチリ下げる●六白、七赤の日は、強氣配にして、後場は前場より高い●四綠、三碧の日は、是迄上げ足であれば一寸下げ氣味となる、又是迄下げ足なれば其反対である●一白の日は、下げ足である

●九紫の月

●九紫の日は、意外の暴騰がある、然し是迄連日上げ足であれば、反つて下げ相場を見せる●八白、五黃、二黒の日は、強氣配にして、チリチリ上りである、前場よりは多くは後場が高い●六白、七赤の日は、寄附より何んとなく氣重く、稍ともすれば下げ足となる●

●九星にて判断する仕方

●九星術上數々なる事を占斷せん爲に天盤、地盤を組みて人事百般の吉凶を判断することは九星活用上の秘事奥傳にして斯の道の大家は皆秘密になして容易に門人にも許さざる事柄なれども實は九星活用の妙味は茲に存するなれば是を知らざれば眞に九星術を學びたりとは言へないのである、因つて本館は大に考ふる所ありて茲に之を公けにす讀者宜しく潜心研究せられ是を萬般に應用せられなば其利益蓋し鮮少ならざるべし。さて此の九星の天盤、地盤を組み合する方法は前章にも述べてある如く天盤とは年の九星盤と日の九星盤を重ね、又地盤とは月の九星盤と時の九星盤とを重ねて占居るかを見定めて、其居る宮に重ね合ひたる盤の九星の何の星が掛るかを見て其相生相尅と、掛りたる星の

盤 地 (盤星九の月)

八宮巽	四宮離	六宮坤
七宮震	九宮中	二宮兌
三宮艮	五宮坎	一宮乾

掛り(四)

盤 天 (盤星九の年)

一宮巽	六宮離	八宮坤
九宮震	二宮中	四宮兌
五宮艮	七宮坎	三宮乾

掛り(一)

働きと且つ其本命星の居る宮の働きとを綜合して判断するのである今茲に一例を擧げて示せば
●一白の人、二黒の年、九紫の月、八白の日、三碧の時に失せ物を占ふとすれば

七宮巽	三宮離	五宮坤
六宮震	八宮中	一宮兌
二宮艮	四宮坎	九宮乾

掛り(三)

四緑、三碧の日は、上げ氣配にして、突發事件あつて意外の暴騰がある●一白の日は、弱氣配である。
附言右毎日の相場観定法、九星觀測法は併用して機に臨み變に應じて活用せらるがよい、尙ほ言ふ迄もなく市場の人氣、大手筋の賣買、天候の變災、國家内外の重要問題、不時の突發事件等は大に相場の高下に關係するものなればこれ等をも併せて考えられねばならぬ、又相場には一金、二腰、三度胸と云ふてあるが、實に古い言ではあるが實際に當つて見ると今更ながら其言の的切なるに感せらるであらふ、一金とは資本の潤澤を要する事、百圓よりは貳百圓、五百圓よりは千圓と資本の多きものだけ大活動が出来る、又二腰とは腰が強くなければ踏まんでもよいものを踏んで仕舞つたりして損失する事がある、次に三度胸即ち決断である、斯處はと思ふ處は躊躇なく大決心を以て爲さねば大成功は得られないのである

右の圖によれば天盤にては（第一）日の盤にて一白星は兌宮に居して、年の盤の四緑が掛り、（第二）年の盤にては一白は巽宮に居して、日の盤の七赤が掛り、又地盤にては一白は巽宮にて、日盤の七赤が掛り、又地盤にては（第三）時の盤にて一白は震宮に居して七赤掛り、（第四）月の盤にて一白は乾宮に居して四緑が掛るのである、しかし是は本式にして突差の場合に四盤を組みて判断することは甚だ手數でもあり且つ日、時の盤が多く働く故日と時との盤を組合せてそれにて判断する法もある。

●其次の例を見るべし。（一白の人の占ひ）

盤星九 (盤星九の日)		
七宮巽	三離宮	五坤宮
六震宮	八中宮	一兌宮
二艮宮	四坎宮	九乾宮

盤星九 (盤星九の時)		
七宮離	九坤宮	五兌宮
一震宮	三中宮	四乾宮
六艮宮	八坎宮	二兌宮

右の圖によれば時の盤にては一白は震宮に居して日の盤の六白掛り、又日の盤にては一白兌宮に居して時の盤の五黄掛るを見るのである。
さて右の盤の掛りを以て失物を判断すれば時の盤にて一白の居る震官は木にして一白の水とは相生である、且つ掛れる六白とも相生である、又日の盤にて一白の居る兌宮は金なれば一白の水とは相生であるされど掛れる五黄の土とは相克なり、然らば其失物は金錢か、或は婦人の道具にして始めありし所より移りて他の場所より發見せらるゝと判断が出来る、又發見する人は男にしてそれに就て人と争ひあるとも判断が出来るのである、凡て盤を組みて判断するのは失物ならば其失ふた時、又走人ならば其家出したる日や時刻よりも其占ふ時刻の日、時の盤を組みて判断するがよい、其他何事によらず皆其占ふ時の日、時の盤を以て判断する方が明斷が出来るのである。

●望み事の占ひ

●願望の成否を占ふには前にも記したる如く時と日の九星盤を作り其掛りたる星の相生相対と其居る九宮の座によりて判断するのである

宮巽	宮離	宮坤
宮震	宮中	宮兌
宮艮	宮坎	宮乾

●坎宮に占ふ人の本命星居る時は中々骨折れて苦心多きも、掛りたる星相生なれば成就す、もし相対なれば成就せず、又比和する時は相生の星掛れば吉なり
●艮宮 多くは滞り勝にて成就せず、しかし是迄仕來りたることを改革する事は相生の星掛れば吉なり
●震宮 本命星と相生にして且つ其掛りたる星も亦相生なれば願望成就するも、もし相対なれば何事も期待したる程の事はなくして反つて意外の驚きあらん

●巽宮 本命星と相生に、且つ掛りたる星も亦相生なれば望み事叶ふべきも、もし相対ならば世間の評判或は人の噂さあしくしてそれが爲に望事叶はず
●離宮 もし相生なれば、官邊、公邊に關すること又婦人に關することは成就す、然し相対なれば成就せず
●坤宮に居したる本命星と相生し且つ掛りたる星と相生なれば成就す、事によりては老婦の助けあるか又は控え目になしたる方利益ありとす
●兌宮 相生なれば吉にして萬事成就すべきももし相対の星掛る時は他人より中傷せられて其事成らず
●乾宮 相生なれば目上などに依頼する事は成就す、しかし掛りたる星も、亦居したる座も相対なる時は人を争ひて其事成就せず
●中宮 相生の星掛りたる時は人に依頼して成就するももし相対なる時は其事成就しそうに見えて多くは成功せずして反つて損失あらん

● 家出したる人の占ひ

宮巽	宮離	宮坤
宮震	宮中	宮兌
宮艮	宮坎	宮乾

- 家出したる人を占ふにはまづ其走人の本命星が時と日の盤の何宮に居るかを知り、次に掛りたる星の相生相剋により判断するのである、なほ走人は其人の本命星により判斷するのである。
- 家出したる人を占ふにはまづ其走人の本命星が時と日の盤の何宮に居るかを知り、次に掛りたる星の相生相剋により判断するのである、なほ走人は其人の本命星により判斷するのである。
- 坎宮に走人の本命星居れば其人近所に居る、もし掛りたる星相剋なれば非常に行くものである。
- 坎宮に走人の本命星居れば其人近所に居る、もし掛りたる星相剋なれば非常に行くものである。
- 震宮遠方なり多くは歸り来らす、又掛りたる星に困難して居る、北方か或は南方の水邊を尋ねべし。
- 艮宮に走人の本命星居れば近所の寺地か、或は大なる家に潜伏す、掛りたる星により年上の者に誘られるとも見らる方位は東北か又は西南なり。
- 震宮に走人の本命星居れば少しく隔たりたる所に居りて更に遠方に行かんとする心持あり、掛りたる星によりては色情と見る、女と一所とも判断せらる又相剋なれば金錢に困窮し居るを見る方位は、西又は東なり。
- 乾宮遠方なり多くは歸らす、年上の人に誘はれし者も見れる、方位は、西北か或は東南なり。
- 中宮未だ其地に居りて何れの地に行かんかと心定まらず迷ひ居る様子あり速かなれば尋ね出すことを得ること意外に遅きものなり。

● 待人の占ひ

- 九星術にて待人を占ふには、時と、日との九星盤を組みて待つ人と待たるゝ人との本命星の居る宮によりて占ふのである。
- 待つ人の本命星と待たるゝ人の本命星が日と時の盤にて重なり合ひたる時。
- 待つ人の本命の定座に待たるゝ人の本命星が這ひり居る時。
- 右は必ず待人するものと知るべし。
- ▲ 待人の本命星艮宮か、坤宮に入りて、待たるゝ人の本命星と相向ひ合ふ時。
- ▲ 待人の本命の定座に待たるゝ人の本命星、入り居る右は來らんとする意はあるも來ること出来ざるか或は

九星盤			日の九星盤			時の九星盤		
巽	三	△	一	六	兌	震	二	七
			●		○			
巽	三	△	一	六	兌	震	二	七

右の盤にて其例を示せば四緑の日、二黒の時に六白の人、四緑の人が四緑の人を待つとすれば右盤にて○印にて示す如く互ひの本命星重なり合ひたり是れ待人来るなり。

● 又五黄の人、一白の人を待つとすれば●印にて示す如く互ひの本命星坤宮と艮宮に居して且つ相對したければ是は待人來らすと見る。●又三碧の人のが九紫の人を待つとすれば△印の如く九紫は三碧の定座に入り且つ日、時何れも相生の星掛れり、是待人來る。●又一白の人七赤の人を待つとすれば×印の如く其定座には入るも相剋の星掛る故、待人は來らずと判斷す。

來ること意外に遅きものなり

旅行の占ひ

- 旅行の吉凶を知らんとする時はやはり時と日の盤を作り其旅行する人の本命星の居る宮と、掛りたる星の生、尅により吉凶を判断するのである。
- 坎宮に本命星居りて相尅の星掛れば旅行先にて盜難あるか、水難あり又相生の星掛ればさしたる災ひなきも食傷、水傷を注意すべし。
- 艮宮は餘り吉にはあらざるもの故郷などに行は悪しからず恐らく長く止まるこあるん。
- 震宮は不時の驚きあらん、掛りたる星によりては遊興などに耽り又婦人の爲に損失することあり。
- 巽宮は餘り長く止まらず歸るなり、掛りたる星によりては他の地方に動くことあり。
- 離宮は遠方なれば吉なるも近き所なれば凶、掛りたる星によりては火難に遇ふことあり。

失物の占ひ

- 失物を占ふには其占はんとする時の盤と日の盤とを組合せて其占ふ人の本命星の居る座と其掛りたる星の生尅によりて判断するのである。
- 坎宮に占ふ人の本命星居れば他人が隠匿したるか或は盗まれたるなり、もし相生の星掛れば速かに尋ねれば出づるのである、方位は北か南なり。
- 長宮は蓋のある箱か或は桶のようなものゝ中にあら、早く搜索すれば出づる、方位は東北か、西南なり。
- 震宮は速は搜索せば出づるも遅ければ出でず多くは始めありし所より他に轉することあり方位は東か西。
- 巽宮は品物の有所屢替りて思はぬ時に出づることあり多くは婦人により發見せらる方位は東南か西北。
- 離宮は品物を置きし場所より遠く隔たりし所にある、時による出でざることあり方位は南か北なり。

盤星九の日		
一巽	六離	八坤
○震	二宮	○兌
五艮	七坎	三乾
巽	離	坤
七	三	一兌
○震	八宮	中
六	二良	四坎
七	九	九乾
盤星九の時		

● 坎宮は風呂敷、或は布帛類の下にあり老女に尋ねさすべし方位は西南か東北なり。

● 癸宮は早く搜索すれば出づるも遅ければ出でず、二階、棚の上等を捜すべし、方位は西か東なり。

● 乾宮は品物を置きし所より遠く隔たりて、多くは出でず、方位は西北か東南なり。

● 中宮は身近かにあるか、始め置きし近邊なり早く捜すべし、時過ぐれば他に移る意あり。

盤星九の日		
八巽	四離	六坤△
震	九宮	中乾△
三艮	五坎	九乾
巽	離八	中
三	二	一坤△
震	四宮	六△乾
七	九坎	五
○巽	八	中
盤星九の時		

● 例えれば九紫の日、四綠の時に三碧の人旅行を占ふとすれば●印の如く相尅にて凶、△印の六白の人とすれば相生にて吉、其他各宮の意は前章を読みて判断すべし。

●盜難の占ひ

- 盜難を占ふにはやはり時と日の盤を組みて其人の本命星の居る座の方に品物ありて、其盤の暗剣殺の方に盜賊隠れ居ることあり、尤も其掛れる星の生尅によりて判断するのである。
- 坎宮に本命星居りて相尅の星掛かれば其品物出でずして盜賊も顯れす。
- 艮宮は年少の者盜みしと見る、速かなれば發覺することあるも遅ければ顯れす。
- 震宮に居して且つ相生の星掛かれば品物出づる又盜賊も現はる、もし相尅なれば品物遠方に持行く。
- 巽宮に居して掛れる星相生なれば、盜品出づる盜賊は婦人なり、相尅なれば品物出です。
- 離宮は品物遠方に持行く意あり、掛れる星相生なれば盜賊宮邊の手にて捕えらる。

●縁談の占ひ

- 縁談の成否を占ふにはやはり日と時の盤を作り男女互ひの本命星の居る座と又掛かる星の生尅によりて成否を判断するのである、しかし其夫婦となりて後の運勢は相互の年月の運勢と相性の良否に大關係あれば宜しくそれ等を參照して判断するがよろしい。
- 相互の本命星が日と時との盤にて重なり合ひたる時、互ひの星坤宮と艮宮に入りたるか又は離宮と坎宮に入りて相對する時。
- 互ひの星が中宮にて重なり合ひたる時、右は其縁談調ひて婚姻成立するのである。
- 互ひの星相生の座に入り居るも相對せずして掛れる星相尅なる時、右は縁談調はざるものとす。

盤の星			日	九	離	四	×兌	九	○	坤
巽	六	△	震	五	一	旦		八	乾	離
										四
										九
										離

盤の星			日	九	離	一	兌	六	○	坤
巽	八	○	震	七	中	艮	五	坎	離	四
										九
										離
										四

盤の星			日	九	離	四	○	六	中	坤
巽	六	△	震	七	艮	五	○	坎	離	四
										九
										離
										四

●今一例を以て示せば七赤の日、四綠の時に九紫の人を二黒の人との婚姻を占ふとすれば○印の如くにして吉なり、又八白と三碧の人の縁談は凶にして調はず、尚ほを見よ、又六白と五黃の人は△印の如く吉にして調ふ注意すべきは×印の如きは凶なれども掛れる星一白の又四綠と七赤の人は×印の如く凶にして調はず、尚ほ生なれば如斯きは既に情交を通じて居るか或は一時縁談調ふも日ならずして破縁となるとも見らる、△印の如きは吉なれども掛れる星相尅と比和なれば縁談は調ふも多少の苦情ありと判断するのである。

●訴訟の占ひ

- 訴訟を占ふにはやはり日と時の盤を組み合せて其占ふ人の本命星の居る座と、掛れる星の生尅によりて判断するのであるが、訴訟などは其人の年、月の運勢も大關係あれば宜しく運勢をも参照して判断するがよい。
- 坎宮此訴訟は餘程困難あり、相尅の星掛ければ敗訴なり、又事件によりては入獄の身となる。
- 艮宮は多くは敗訴なり、然し相生の星掛ければ事件永引きて遂に仲裁入りて落着す。
- 震宮は勝訴なり、意外の出来事ありて一時は負けそうなれど、多くは勝つ、しかし相尅の星掛ければ凶。
- 巽宮は事件永引き意あるも、掛けたる星によれば意外に早く片付きて物足らぬようと思ひすることあり。
- 離宮は正直なれば勝訴なるも、若し不正直なれば敗訴にして且つ入獄することあり。
- 坤宮は事件至つて涉ざらす、仲裁を入れるゝを宜し

- 前に示したる九宮の座によりて判断することは、實に九星判断中の活断にして其妙云ふべからざるものがある、然るに斯る活断術あるを知らずして、九星と云へば唯方位の吉凶を論するものとのみ思ふ輩が多い、實に笑ふべきである、抑も九星術にて鑑定するには三ツの別がある、洛書、洪範九疇の元機により、人生の運勢を考え、又た四方四隅の吉凶、生尅によりて方尅方殺を知り、又是を人事活断に應用して、小にしては八十一變の變化、大にしては八百十通りの變化によりて、人事百般の事を占斷爲す活法がある、然し始めより餘り詳しく説き示すは、反つて初學者の惑を増さんを憂え、本書には其八十一變の一班を示すのである、されば是によりて其九星判断術の妙味を知りなは深く研究せんとする熱心の士は本館發行の『九星極意八百

日の九星盤			時の九星盤		
離	九	乾	離	九	乾
二	七	五	一	三	八
巽	○	中	震	○	中
一	震	六	艮	六	坎
○	○	艮	○	○	坎
六	艮	四	五	三	八
巽	○	離	一	○	離
九	○	九	四	四	九
○	○	艮	○	○	艮
離	一	二	六	二	七
九	○	坎	○	○	乾

とす、相尅の星掛ければ敗訴することあり。

●兌宮は相生の星掛ければ勝訴なるも費用負けしてつまり損なり、宜しく和解するをよしとす。

●乾宮は氣強く出づれば勝利なり、相生の星掛ければ早く落着するも相尅なれば長引く意あり。

●中宮は和解を申込まるゝか或は他に仲裁あるも意見定まらずそれが爲に訴訟上損なれば時期を延すべし

●例えば三碧の日、六白の時、一白の人を占ふとすれば印の如く相生なれば吉、六白の人とすれば●印の如く相尅なれば其訴訟は延すを吉とす餘は準じて知るべし

●十通り變化奥傳』(定價金二圓)に就て尙ほ深く研究せられなば、實に陰陽の理を解して、何事を占ふとも百發百中、其的中に驚かん。

又世間には方位を説き、災殺を論するも、多く其真理を知るものは希れである、それ故笑ふべく、恐るべき事が多い、縦合ば嫁取、讐などにても、其貴ひ受ける方が、方角を調べて吉凶を論するものあるが、實に笑ふべきである、貴ひ受ける方は動くことはない、貴はるゝ方こそ、其動く方位によりて方位を犯し、又方犯も受くるのである、故に貴はるゝ方はよく方位の吉凶を調べねばならぬ、又家相を論するに方鑑のみを以て其吉凶を論するものがある、實に誤れるの甚しきものにして、其吉凶を過り爲に災ひの及ぶところ計るべからず、まことに恐るべきである、是等の事も本館より發行せる、「九星判断術講話」又は「家相の見方」(定價一圓五十錢)等に詳かに解説してある。

●掛合勝負事に當る日取

●一白の人六白七赤の日に東辰巳方へ行ば勝利 ●二黒五黄八白の人九紫の日に東又は未申方へ行ば勝利 ●三碧四緑の人一白の日に辰巳又は南方へ行ば勝利 ●六白七赤の人二黒五黄八白の日に北方へ行ば勝利 ●九紫の人三碧四緑の日に酉辰巳又は北方へ行ば勝利あり

●産所向と胞衣を納む心得

産所の向方は能々方角を選むべし其場所は家の中央は凶である其故は中央の室は生るゝ子の本命中宮に當る故に能々恐れて其年の吉方を選み用ふるがよい ●次に胞衣納方吉方を選むには歲破、暗劍、五黄、本命、的殺の凶方を除き次に子供の本命星の吉方を選むがよい例へば一白の年の子なれば六白、七赤、三碧、四緑等の居る方角にて前記の凶殺の掛らぬ方向がよい餘準之

●四目十日の事(四厄重惑の解)

四厄重惑とは十二支の相生をいふ、俗に四惡十惡とて年より年まで數へ四つ目と十目を忌む人あり甚だしき間違なり、四厄重惑は十二支の内の巳年、午年、申年酉年の生れの人ありて其外の年に生れたる人にはなきものなり即ち巳年の人と申年の人、午年の人と酉年の人此の二つは四厄なり、又巳と午、申と酉、午と申酉と酉、申と申、巳と酉、巳と申、午と午、此八つは重惑なり、その外に四厄重惑はなきものである

- 木性の人 西の年八月より戌亥子丑寅卯の七年間は有卦に入る ●辰の年の三月より巳午未申の五年間は無卦にて萬事控目にすべし
- 火性の人 子の年三月より丑寅卯辰巳午の七年間は有卦にて萬事吉 ●未の年六月より申酉戌亥の五年間は無卦にて萬事凶なり
- 土性、水性の人 午の年五月より七年間は有卦にて大吉 ●丑年十二月より寅卯辰巳午の七年間は無卦にて凶
- 金性の人 卯の年二月より七年间は有卦 ●戌の年九月より亥子丑寅の五年間は無卦なれば萬事慎むがよい

●病氣を全治する秘訣

天地の季節は四十五日間を以て改るものなれば轉居、婚姻其他百般の事若し其凶なる月日に事を始め夫が爲

●凶縁を吉縁とする秘法

世間に相性が悪いと云ふて折角の良縁も仕方なく思ひ止まる事がある又時には男女の相思の仲を相性が悪いとて生木を割く様な事が澤山ある之れ等は實に人事の悲みや大なりと云ふべきである然し相性は悪くも左の方法を以て婚姻すれば決して心配なく必ず將來を安全にする事が出来る世の父兄諸子は決して心配せず安心して決行なさい、先づ茲に一例を擧げますれば三碧の男子が八白の女子と婚姻せんとする時は本魁士の凶なれ共其女子の本命八白を生ずる方位を年月日に擇み定めて縁組すれば相性の夫婦より猶一層確實な良縁となります其實例は七赤金星の年八白の女子が南方へ婚姻するなら年に於て南方に二黒の比和星座し本命乾宮に座す中宮は七赤月星は南方九紫天道月徳の吉神座し本命艮の本宮に座し中宮五黄日に於ても同じく五黄中

宮の日を撰んで婚姻するのである。

●妊娠月を知る法

易に曰く男女精を構ふて萬物化生すと實に天萬物を生ずる必ず陰陽雄雌ありて以て生々發展の道を爲すのである今易道の秘事とせる妊娠力を知る法及び胎内の男女を知る法を左に記す妊娠の年を三にて除し一が残れば一、四、七の月か十月が妊娠月、二残れば二、五、八の月か十一月、三が残れば三、六、九の月か十二月が妊娠み月なり除して残數なきは三、六、九月か、十二月二月なり、但し月は舊曆を用ゆるのである

●胎内の男女を知る法

母親の歳(一四六八)の偶數の年に宿り明る年舊五月の節句前の產月ならば男子、若し節句より後の產月であれば女子が生る●母親の歳(一三五七九)の奇數にして明る年の產月節句前あれば女子、節句後なれば男子で

凡そ災難は如何なる場合に如何にして来るやと云ふ事は中々人間では知りがたい然し靈妙なる心理作用を以て未だ自己の豫知せざる事を知覺する三脈術がある
●毎日毎朝夕或は時々之れを試みて保身の用とするが宜い其法は第一左の手を以て頸の下の頸の兩側大動脈の處を拇指と人指とを以て押へればドキ／＼と脈を感じ次に右手の中指と紅指とを以て左手の手腕の動脈を押ゆれば脈を感じる如斯して左手の指に感する頸下の脈と右手の指に感する左腕の脈と相一致してドキ／＼と同じ様にひどくときは決して災難はない若し一致しないで頸の脈か或は腕の脈か何れか小さい事がある時は必ず災難がある、又脈の波動即ちドキ／＼する的是も同じであるが然し頸の脈か又腕の脈が早くて即ち頸腕の脈に速があれば災難があるので御注意するがよい

●災難を前知する奇法

●善き主人を撰む法

(附目下の善き者を撰む傳)

主人を撰むには自己の本命と相生する人を撰むべし
●一白の人は六白の主人吉●二黒の人は九紫の主人吉
●三碧の人は一白の主人吉●四綠の人は三碧の主人吉
●五黃の人は八白の主人吉●六白の人は八白の主人吉
●七赤の人は二黒の主人吉●八白の人は九紫の主人吉
●九紫の人は四綠の主人吉
●本來は九星干支の相生相剋に生年月日に依て撰むが正確であるが右の撰方で多くは成功する
又目下を撰むには前の方法と同じく只、一白の主人は三碧を用ひ二黒は七赤を用ひ三碧は四綠を用ひ四綠は九紫を用ひ五黃は八白二黒を用ひ六白は一白を用ひ七赤は五黃二黒を用ひ八白は六白を用ひ九紫は八白を用ふれば必ず主人の爲めに忠僕となる

ある、以上の數を知るには十九は一、二十、は二、と數ふ譬へば十八歳は九、二十歳は二、二十一歳は三、三十五歳は八、と數ふべし餘は之に準じて知るべし

●裁判にて勝利を得る法

裁判に必ず勝利を得る法は非なる者を勝利になすと云ふのでなく理ある者も時に依り理が非に落ちて敗訴となる場合に此厄に罹る事なく勝利を得る方法です。先づ第一に其方位を知り次に辯護士又は代理人たる人の星と自己の星と相生なるや否やを研究すべし、假へば一白の人は六白、七赤、三碧、四綠等、の星に當る人を代理者に選定しなさい、又二黒の人は九紫、六白、七赤等の星の人、三碧四綠の人は一白、九紫の人を選定し五黃は六白、七赤、九紫の人、六白七赤生れの人は二黒五黃八白、一白の代理人に依頼せば必ず勝利を得る

●秘傳人相鑑定術

人の相貌を見て其吉凶を豫断する術を風鑑術と云ふ之れを普通一般には觀相術と云ひて其顔面の骨格の肥瘦皮肉の厚薄氣血の喜滞によりて其人の過去現在未來の吉凶禍福を判定するのである其起原は遠く支那の古代に初まり春秋戦國時代より秦漢時代には隨分發達したるものである又我國に傳來したる年代は詳らかならざるもの倒の遣唐使時代に我國に傳はりしは確かである然るに其術を傳へし書も多くは秘書させられ五山等の書庫に深く秘せられ容易に世人の窺ふことは出來なかりしも徳川時代に至り漸く民間にも是を修行するもの多く殊に水野南北、山口千枝、井田龜學等の達人出でゝ益々觀相の極秘を闇明し之れを書に著はして後進を導き以て今日の隆盛を致したのである

さて我國の觀相術は歐米に行はるフレノロジーの如く唯性格を論するのみに非ずして面部の盈虛眉目的清濁皮肉の厚薄筋骨體膚の細脂血色の喜滞心氣の短促音聲の大小頭顱の方圓、毛髮の細疎爪齒の好惡等によりて壽天貧富禍福吉凶の輕重を判定するのである

かく説き來ると讀者或は其術の學び難く入り易からざるよう思はんも凡そ物には順序ありされば其順序を踏み是れを學ばゝ何の難きことか之れあらん譬は高山に登が如く始め其雲際に聳ゆるを見ては何れの時かよく頂上に至るを得んと掛念せしも一度頂上に至れば下界の山川一望の中に入り其快言ふべからずして且つ前攀登の苦を掛念せし時を笑ふに至らん本書は實に一小冊子なり然れども古今の相書より其粹を抜き精を集め尙ほ著者が多年師傳口授により實驗せしものを加へ務めて文辭を平易にし是を世に公けにす讀者幸ひに言辭の卑近を咎めず是によりて觀相の妙味を知るを得ば編者の幸甚とするところである。

●人相の見方

●凡そ人の顔面を相するには穴所と云ふて各其見るべき箇所がある從令ば自分の妻か或は婦人の事は妻妾宮



(魚尾妻妾と云ひて眼尻の邊を云ふ)によりて判定す

●二停の説明

三停とは額の髪際より眉迄を上停と云ひ肉豊に血色宜しき者は立身成功し又初年の運勢殊によし然るに肉薄く額の格好あしく缺陷あれば親に早く別れ困窮せん

●眉より鼻までを中停と云ひて肉付よく豊高なるものは長壽にして富貴なり又中年の運勢大によし然るに此

所偏曲にして短く缺陷あるか理絞多き者は中年に大病あるが又は破財困窮の事あり。●鼻より頤までを下停と云い肉厚く血色よろしきは一生物に不足なく田畠地所を數多く所有す然るに其格好悪しく細長きか又は短くして見悪くきは住所に離るゝか先祖傳來の田畠を人手に渡すか老て子孫に離るゝか兎角晩年の運氣に障あり

五獄の説明

●五獄とは額を南獄となし鼻を中獄とす、頤を北獄となし左の觀骨（觀骨とは眼尻の下にて鼻先と並びたる高き所）を東獄となし右の觀骨を西獄と云ひて右五獄の内一ヶ處にても宜しき者は福運あり然るに血色悪しく肉薄く何んとなく憂愁を帶ぶるものは運氣開かず天死するか又は五年に一度病難あれば注意するがよい

十一宮の説明

●第一命宮は、兩眉の間を云ふ豊にして光り潤ひある

尖りたるは貧賤である疵あるは故郷を離れ他國にて苦勞が多い
●第七妻妾宮は眼尻の脇にして頬の高き所の上である此所肉づき至てよく平にして血色潤ひあるは男は賢妻を得女は富貴の夫を持つべし然るに此所に疵あれば夫妻の縁替るか或は女難あり
●第八疾厄宮は兩眼の間を云ふ肉満ち豊厚にして疵なきは無病にして命長く又富貴發達なすのである然るに縦横の筋あるか疵あれば至つて病身なり
●第九遷移宮は眉の尾の上を云ふ此邊疵なく肉豊かる然るに疵あるか血色あしきは十居九變とて惡し
●第十官錄宮は上額を云ふ此邊肉高く血色宜しき者は目上の引立ありて名聲を揚ぐ然るに血色あしきか疵あるものは祖先よりの業を替え破財を主る
●第十一福德宮は兩眉の上の眞中を云ふ此邊至て肉

附よく血色潤ひあるは貴人の引立ありて立身出世す之に反するものか又疵あるは親の名跡を破り大に困窮す
●第十二相貌此の相貌とは前に陳べし三停五獄の釣合ひよく凡ての血色も潤しく缺陷等もなく至つて宜しき相貌は富貴繁昌にして長壽を主さる
●天中（圖を見よ以下準之）の骨高く肉満ち豊潤なるは官署に關して幸福を得るか又大志望を抱きて間々成就することあり然るに疵あるか血色惡しきは官邊の災えあるか又田畠地所を失ことあり
●天庭に肉起つて日を經るに從ひ腫れたる如く見ゆる者は貴人の引立を得て大に立身發達す然るに肉落ちて黑暗の色を顯すときは目上の心痛あり
●司空に肉満ち血色至つて宜しきは目的の事業意の如く成功す然るに疵あるか血色あしき時は障害あり

十二部位の説明

は才智ありて初年より世間の評判よろし眉と眉の間二本の指に入るゝこと能はざるは心卑しく手前勝手なり
●第二財帛宮は鼻を云ふなり其形至つて格好よく豊隆端正にして肉厚きは富貴にて子孫繁昌なり又肉薄く目と見合せて相應せざるは中年に大病か或は貧なり
●第三兄弟宮は兩眉を云ふ眉長して目を過ぐるは自分の運よろしきも、兄弟の縁薄し又缺陷が黒子あれば兄弟と不和にして短壽である
●第四田宅宮は眉と目の間を云ふなり此所の肉豊にして眼大に漆の如きは終身幸福である又眼の形あしく飛出したる如きは家を破り女は難産の恐れがある
●第五男女宮は左右の眼の下を云ふ肉付至てよく調ありて色澤よきは福運ありて子孫が多い然るに小皺多く疵か痣あれば目下につきて辛苦あり
●第六奴僕宮は頤の兩脇を云ふ圓く肉満ちて血色潤しきは住所と目下の縁至てよろしい然るに肉薄く頤先

- 中正 の肉何んなく高く血色潤はしきは願望調ふ前兆となす然るに暗黒色を呈して何んとなく枯れたる如にして色澤なきは其事業調はざるものである
- 印室 の肉起つて潤しく光澤あるは家事向き都合よく家庭圓滿に貴人に近寄り幸を得る然るに缺陷あるか血色悪ければ兄弟分離するか家内に病人あらん
- 山根 の血色至つて美にして年上、壽上より準頭迄通り疵や瘧なきものは中年浮沈多し又色悪しきは病あり
- 年上、壽上の二宮の血色あしきは其當時殊の外衰運なり縦横の筋多きは妻を憇す又堅筋あるは養子するものである
- 勞頭 の肉満ち至つて豊かに両方の小鼻張りて形狀よきは富貴にして人の評判よし然るに缺陷あり又は其形あしきは他人の譏りを受け山氣を出して破財するこ
- 天陽 は官事を司る肉付き至つてよく光澤潤しきは、富貴にして立身す又其血色によりて當時の吉凶を識別すること緊要である
- 高廣 は遠方の官邊に關する事項を見る穴所である其血色の好惡によりて吉凶の活断を要する
- 邊地 は遠方の官邊に關する事項を見る穴所である其血色の好惡によりて吉凶の活断を要する
- 山林 は財産を司る其肉豊満が宜しい又骨高く起り他の穴所にも宜しき所あれば一縣或は郡村の長となる
- 主骨 の肉豊満にして潤いあれば好き主人を持つか貴人の引立を得て意外の出世を爲すべし
- 神光 の血色常に宜しきは平常信仰心ありて慈善の行ひあり然るに枯れて光澤なきは神佛を尊信するの念に乏しく自然其行ひも慈悲を缺くことあり

●顔面其他の穴所説明

- 日角、月角 は父母に關する事を見る、もし此所に缺陷或は疵等あれば幼少にして父母に縁薄し
- 驛馬 は普請移轉旅行等を司る其吉凶は血色の好惡によりて判定する
- 交友 は交際を見る所である此處に故障あれば永く自分の力になる親友に乏しい
- 兄弟 は兄弟親族を見る所である眉毛並びよく光澤あれば兄弟の中にて力になるものあり
- 田宅 は家内の事を見る其肉豊かに血色至つて宜しきは家内圓滿なり然るに血色あしきは家内不和合なり殊に赤色を呈すれば火難を注意
- 男女 は子孫を見る箇所である其肉平らにし縁あり光澤よろしきはよき子孫あり然るに肉殊外張るか或は落ちこみ枯れたる如きは子孫なきかさなくば子孫の爲に辛勞多からん
- 奸門 は婦女の事を見る箇所なり其血色の好惡によ

- 其事成就なし難し
- 中正 の肉何んなく高く血色潤はしきは願望調ふ前兆となす然るに暗黒色を呈して何んとなく枯れたる如にして色澤なきは其事業調はざるものである
- 印室 の肉起つて潤しく光澤あるは家事向き都合よく家庭圓滿に貴人に近寄り幸を得る然るに缺陷あるか血色悪ければ兄弟分離するか家内に病人あらん
- 年上、壽上の二宮の血色あしきは其當時殊の外衰運なり縦横の筋多きは妻を憇す又堅筋あるは養子するものである
- 大海 は平常口を開ち物言ふ時は大に口を開く者は短命にして種々不幸の事あるべし
- 人中 は上部せまきが如くにして深く下部尖端正しく障りなきは好き子孫あり然るに人中淺くして無きが如きか或は横に筋あるは晩年非運となるか又は子の縁薄し萬ヶ一にも子あれども力でならず
- 承蒙 の血色美しく潤ひあるは常に美食を爲す人で慎み深く秘密を守り大に發達するに何時も口を開き縫りなきは油斷多く秘密を保つことが出来ない又上唇薄く上歯の出張るは多辯である
- 地閣 の肉満ちて血色宜しきは家屋田畠を有し美宅筋あれば水難あらん髭あるは水厄を免るゝなり
- 駐馬 は普請移轉旅行等を司る其吉凶は血色の好惡によりて判定する
- 交友 は交際を見る所である此處に故障あれば永く自分の力になる親友に乏しい
- 兄弟 は兄弟親族を見る所である眉毛並びよく光澤あれば兄弟の中にて力になるものあり
- 田宅 は家内の事を見る其肉豊かに血色至つて宜しきは家内圓滿なり然るに血色あしきは家内不和合なり殊に赤色を呈すれば火難を注意
- 男女 は子孫を見る箇所である其肉平らにし縁あり光澤よろしきはよき子孫あり然るに肉殊外張るか或は落ちこみ枯れたる如きは子孫なきかさなくば子孫の爲に辛勞多からん
- 奸門 は婦女の事を見る箇所なり其血色の好惡によ

- りて婦女に關する吉凶を判定するのである
- 妻妾 魚尾は夫妻の事を司る此處の肉豊かに潤しければ男子に良妻を娶り婦人は賢夫に嫁ぐ然るに黒子缺陥あるか他の故障あらば夫婦の縁薄くして辛勞多く互ひに力になり難い
 - 賊盜 は金錢の事を見る其現時の血色的好惡によりて吉凶を斷定するのである
 - 觀骨 は世間の評判或は交際を見る其肉豊満にして光澤宜しきは他人との交際至つて圓満にして世間の評判至てよろし又骨高く突起したるは社會に活動することを好み間々大事を爲すことがある
 - 命門 は秘密の事を見る又其血色的好惡によりて疾病を鑑定するのである
 - 蘭臺 従尉は財産を司る其形狀及び血色によりて利害損徳を判定するのである
 - 法令は 職業を見る箇所である此宮の血色的好惡にて一家の幸福を増すことがある



貴相の説明

- 貴相とは天庭潤く日角秀で目漆よりも黒く眼光爛々

して大白星の懸れるが如く鼻梁聳えて天中を貫き眉毛細くして新月の如く且つ秀で其色潤はし口の閉づるや四の字の如く物言ふ時は聲力ありて大聲ならざるも能く遠方に聞ゆ相對して自ら尊嚴の氣ある故能く其面を

熟視すること難し且つ相座して尺を隔てざるに兩耳を見ること能はず其座するや恰も大山の如く威嚴堂々たり立つ時は両手を垂るに膝頭を過ぎ人によりては重瞳のものあり其行くや虎驥龍奔と云ひて他の犯すべからざる様子がある實に三停五嶽十二宮十三部位を始め其他皆全相を具備して心清く體豊かに智仁勇の三徳備はつて物に慈愛の念深く所謂其仁徳の如く其智神の如しひに就かば日の如く之を望めば雲の如しと云へる古聖人などは皆如斯相を具備せられたりされば我國にても古來明君聖天子と云はれし歴代の天皇は皆如斯き貴相である故に希に見る相として古昔觀相の大家も千萬人を相せしが全相を具備したるものは未だ嘗てなしと云へり眞に稀有の相にして世々社會に出づるものに非ずされば普通の人は其一部を備るも猶ほ且つ富貴榮達を得て衆人の尊敬を受け名聲も海外に轟し後世迄も偉勳を垂ることを得ん

- より業務の盛衰及び吉凶を見るのである
- 食錄 の肉満ち血色宜しきは終身衣食に不自由なし然るに色悪しく枯れたる如きは衣食家財に不足あらん
 - 地庫 は隠宅傍屋を司る其吉凶は血色の好惡による
 - 害骨 此處尖り張りたる如きは至つて剛情である男子は目上の言を用ひず女子は夫に反抗す
 - 奴僕 は田畠奴僕の事を見る箇所である其肉豊満にして潤ひあるは地所田畠を持ちて忠實なる婢僕を使ひて一家の幸福を増すことがある
 - 凡そ顔面には百三十部位二百五十五穴などと云て其鑑定すべき穴所は繁多なれども初心者には其名稱を記憶するさへ容易の事ではない故に本書には鑑定上最必要的箇所のみを擧げて解説を施してある以下章を逐ふて數々觀相上心得べき事を詳説するに當り前掲の名稱は屢々出づべきにより讀者宜しく前圖と對照して記憶せらるれば便益殊に多かるべし

●富相の説明

●富相とは天庭隆高にして豊滿に天倉の肉隆起し貴骨
く度睡龍蟠にして息するも知れず之れ眞に富相の典型
であるしかしかくの如く全相を具備するものは至つて
希れなり然れども其一相を有するも尙ほ富を得て家門
の繁昌を致すべし



●威相の説明

●威相とは朝霞の面天日の表と云ふて尊嚴にして畏る
べきを云ふのである天庭廣く日角隆起し虎眉と云ふて
眼光りあれどもよく其威を藏し年上壽上潤ひありて口
に四の字の如く齒は銀白に似て美しく其聲力あるも餘



眉毛濃く其色至つて潤しく目漆の如く光澤ありて魚尾
上り物を視るに偷視することなく眼中自ら光ありて變

に遇ふても暗ます鼻梁正しくて常に口を開ぢ物言ふ時は其聲力ありて音吐朗々として聞くもの皆其威にうたる其座せるや恰も泰山の如く背あつく腰正しく猥りに人の犯す能はざる様子がある其歩行するや虎行龍奔實に古の英雄豪傑も斯くの如きかと思ふ風である然るにかく全相を具備したる者は五百年間出の傑士にして長たり又畏敬を受くるものである

眉毛荒られども濃く眉頭より眉毛上り地荒れ缺陷などなく眼光自ら人を射る如きは人の長となりて畏敬せらる

奴僕宮肉附よく何の障りもなく他に威相の箇所あれば多人數の長となりて名聲を揚げん

古來草莽より起りて天下に名を挙げし英雄豪傑は勿論今日にても陸海軍の勇將或は在野の所謂浪人組中の將々たる人物は皆如斯相の一部を備えてをる

り遠く響かす兩耳厚くして朶垂下し其面方正にして背
あつく腰たゞしくして座するときは山岳の峙てるが如く度睡龍蟠にして息するも知れず之れ眞に富相の典型であるしかしかくの如く全相を具備するものは至つて希れなり然れども其一相を有するも尙ほ富を得て家門の繁昌を致すべし

天倉と云ふて眉の上の肉隆起し、豊滿にして光澤あるは財寶多く保つの相とす

地閣と云ふて頤の邊方正に形狀よく肉満ちたるは住居廣く地所田畠を數多く所有す

金匱甲匱と云ふて鼻梁の兩脇に貴骨連なり豐隆なるは家財豊かにして人の羨む程の身分となる

身體瘦たりとも聲高くして氣韻あり且つ舒やかに耳朶厚く垂れ口方正なれば金錢積聚して自ら愉快である今日巨萬の富を致せし人を相するに必ず其一相を有して成功せし事疑ひないのである

壽相の説明

●壽相とは神粹にして骨清く肉又堅く聲音朗々として金鈴を振るが如し鶴形龜息と云ふて形體細長くして氣



貧賤相の説明

●貧賤相は頭小さく額狭く耳低く垂れ鼻仰ひて竈門に繰りなく口は尖りて肉緩み形狀見るからに卑俗にして



神怯へ氣濁り物を食するに鼠の如く食し歩するに蛇行して道を行くに直行せず此邊彼邊とうづ付歩き左顧右

盼し物云はんとすれば涎れ已に墜つるなご皆貧賤の相である又三停の釣合あしく鼻門繰りなく食ふに遅く漏りするに早く音聲乾き氣短かにして然も事を爲に痴鈍なるは又貧困の相である

額小さく頭尖り頤窄まりて顔面の様子憔悴して髮粗にして常に悲色を帶びて物言ふに啼泣するが如く眉頭を蹙めて怨嗟するが如きは窮困の相である

皮膚乾いて爪常に枯れたる色を爲し鼻先尖つて薄く平常口を開き物言ふに歯牙を顯すは下賤の相である

以上列舉せし相は下賤貧困の相である假令富貴の家に生るゝとも晩年の窮困火を見るよりも明かである宣しく品行を慎み慈善を行ひ神佛を尊崇して務めて善良の行ひを爲せば禍を轉じて福となすことが出来る

本出で骨格堅牢にして輕浮ならず外面の血色餘り脂らす法令深く寛く地閣又圓どかにして人中に鬱滿ち陰陽龍宮潤澤あるは皆壽相であるされど古來富貴の相は誠に見易く世に知り難きは唯壽なりと先哲も既に壽を相することは將に形狀によつて爲すことを戒めてあるされば百歳以上の長壽を相するは自ら別傳あり然れども次に記す一相あるも尙ほ七十歳以上の壽を保つこと必然である

古貌にして雙方の眉秀て眉毛中に數本の長き毛出でゝ缺陷なきは長壽の相である

安座すれば腹囊の如く垂れ唇紅ひにして常に口を開ち氣寬かに皮肉厚きは年老ひて尙ほ豐饒たり眉毛長く秀て人中深くして鬚あり法令長くして深く地閣に至り手は綿の如く柔かなるは是れ長壽なり肉緩かに精神爽かにして龜背と云ふて背骨豊かに鶴歩と云ふて歩行するに緩かに性急ならざるは長壽なり

●孤獨相の説明

●孤獨の相とは頬骨高くして氣和せず眼尻枯れて光澤なく又耳薄く耳に輪廓なく涙堂窪みて眉八の字を爲し



●惡相の説明

●世に惡相と云ふて殊の外是を忌むも古來亂世に起れる英雄などには間々惡相を備えたるものがある今日に



於るも政海知名の士或は陸海軍の猛將などには間々之を見るこありされど皆教育の力によりて是ぞ善用せ

る故に美名を後世に遺し大名天下に揚げることを得るのである然るに教育なきものは目前の小利慾に眼暗み不義不正の行ひを爲して醜名を天下に流すのである讀者宜しく三思して判定すべし

眉の毛粗くして強く眉頭細くして眉尻太く斜めに恰も尖りたる劍の如きは其性至つて兇暴にして間々刑僻に觸れることがある

眼の瞳子餘り動かす人を見るに威あるものは短氣にして親の言に従はず不孝を爲すことあり然れども右二相を備ふるものは軍人となりて大名を轟すものなり三方白目或は四方白目を三白眼四白眼と云ふ妻は夫を歎し夫は妻を歎す俱に共同して事を爲すと必ず相手に損失をかく兎角短慮奸佞にして大人物には非す鼻の先鋭く下向きに曲り恰も鷺の嘴の如きは人を愛敬する念薄く物事我意強く兎角人の美事を嫉み人を企みて陥るゝを好み不正の事多し

忙くして馬の奔るが如く頭先づ進みて常に氣短かに食事を爲すにも彼是と移り箸を爲すこと多く又首筋短かく歯跡らにして鼻骨歪みたるは是又孤獨の相である鼻の先に赤き點多くして眼尻の色乾枯を帶び耳に輪廓なき様に見ゆるは子なきの相なり

眉上に横紋出で眼の下に涙痕常に絶ざるは從令家産豊かなりとも是を譲るべき子なし

男子にして女子の顔に似たり或は女子にして反つて男子に其容貌似たるものは心中淫慾多くして晩年の運氣甚だ宜しからずして孤獨の相である

年上壽上に堅筋長くあり人中に細き横筋あるは他人の子を養はざれば百萬の財産も是を譲るものなかべし人生少壯の間は意氣の盛んなるに任せ決して晩年の事は念頭を掛けざるも年老ひて之を扶くる子なき程憐れなるはなかるべし然らば右の一相あるものは宜しく陰德を施して晩年の窮厄を免るべし

○天相の説明



●天相とは若死の事である凡そ人の此世に生れて事を成さんと欲するに希れには早く成功を得るものあれど

○紋理と黒子の見方

●頭は一身の尊長なれば高きに居て圓く以て天徳に象る又脳髄のある所にして神經の中樞なれば其骨豊かに



して起り峻くして凸となるを貴しとす之に反して陥るものは夭死にして其皮薄ければ貧賤である ●頭に日角

あれば仙骨と云ひて大に貴し僧侶などは一宗の管長一山の住持となりて名僧の名を博す ●耳の後に骨あるを壽骨と云ひて隆起したるものは命長し然るに其陥るものは夭死の相である ●髪は疎にして黒く短かくとも潤ひあるは吉なり ●髪早く白くなるは至くて凶なれど再び黒くなるは吉 ●古來濃髪の大臣なくまた突髪の健兒なしとて餘り髪の毛の濃きは賢者に非らず又子供の折髪の毛の立つは餘り壯健の子供ではない ●髪の粗くして硬く索の如きものは性質剛情にして孤獨の相である又蓬の如く巻き縮れたるは性狡猾にして自ら困窮を招くことあり ●額方廣にして豊かに隆く好紋あれば官位進みて大に立身榮達するに頭狭く缺陷あり更に惡紋通の人には餘り見かることなし ●額に川字形の横紋あれば一生辛苦して窮乏多く貧賤疑ひない ●額に王字形の紋あらば意外の立身出世を爲すものである然しこ通の人に見かることなし ●額に川字形の横紋あるは長壽にして人の尊敬を得 ●額の天中に横に一文

を爲すことを能はやん次に記す相を有する人は宜しく生命の保全に注意し陰徳を施し善行を爲し以て天惠を得て長壽を計るべきである
天庭狭く中正に毛を生じ眉八字形を爲して耳の肉薄く人中至つて短かく唇はれたる如く縮み行住甚だ不活潑にして座しても正しく長く居ること能はず物言ふに甚だ力なくして嘶くが如きは夭死の相である
常に眼暗く伏目勝にして知らず／＼鼻水を垂らし鼻毛長く外に出で上齒ぞりて唇又は頤短かく平常面は憂愁の氣を帶び歩行するに醉醒めの如く力なき様子ありて何んとなく其形衰へたるは夭死の相である
皮膚薄くして肉重く精神強けれども氣舒ばずして喉の骨露はれ眉と眉との間せまく常に顔面に暗黒の雲烟懸れる様に見るは四十歳以上の壽命を保つことを能はずかに皮膚の色浮光するは長壽にあらず

女子の紋理の圖



●字あるは富貴榮達を得る
●天中に黒子缺陷あるか或は惡しき紋あるものは一時立身出世することあるも永く其榮達を保つ能はず途に災厄に遇ふことあり●日月角隆起したるは大に貴相である●中正骨起つて皮膚光澤あるは大に立身發達す

男子の黒子の圖



●眼長くして深く光り潤ふものは大に貴し●眼大にして漆の如く黒きは聰明にして文章に巧である又細くして深きものは長壽を保つ然し僻み嫉み心あり流しめに偷み見るものは多淫か盜心あり●赤筋横に瞳子を貫く

時は變死することあり●婦人にして眼の下に赤色あるは難産の兆なり

●魚尾（眼尻五分程の處を云ふ）に缺陷あるか黒子があれば妻縁屢々替る婦人にありても夫をよく替ると必然らざれば家内に辛勞多く不足あり●魚尾に筋多きは妻縁變るか他の女と情を通することあり或は女を世話することあり●眼の下を三陰三陽と云ひて肉豊かに潤艶なるを吉とす缺陷あるか筋深く露るゝは子の爲に心配が多い

●婦人の髪際餘り濃くなく俗に云ふ富士額にして眼尻の邊肉厚く潤澤あれば至つて貞操の婦人にして夫を助けて家内和睦圓満なり●婦人の人中（鼻と口の間の溝の如き處）に黒子あれば双子生る又人中淺きは子なし獨となる●肥たる女に髪少きは至つて不仕合なり又瘦たる婦人に髪多きは夫一人にて治まらず●魚尾眼尻

然るに此處に缺陷黒子あるか殊外低く見ゆるは男女とも早く孤獨となる又婦人にして此相あらば再三縁替る印堂眉の間に黒子あれば務て人と争論することを慎むべし過つて刑に遇ふことあり●眉は兩目の華蓋にして又顔面の飾であるされば細く平らに清秀にして長きは聰明にして才智優れたり、之に反して眉毛粗らく逆だち亂れ或は短くして盛むものは其性剛情にして至つて頑固である●眉長くして眼を過ぐるものは富貴にして財寶饒かなり然るに短かくして眼を覆ざるものは窮乏すること多く財を保つことが難ひ●眉の毛の中に黒子あるは才智勝れ世才に長ず然し兄弟朋友の縁薄しして頑固であること如くはなし

●目は一身の日月にして是れなくば物の黑白を識別すること能はずされば休める精神も目覺むる時は目にありて物の正邪善惡を識別す故に人の賢愚正邪を知るは其人の目を視るに如くはなし

●田宅眉ご目の間に黒子あれば破財することあり

●印堂眉の間に黒子あれば務て人と争論することを慎むべし過つて刑に遇ふことあり●眉は兩目の華蓋にして又顔面の飾であるされば細く平らに清秀にして長きは聰明にして才智優れたり、之に反して眉毛粗らく逆だち乱れ或は短くして盛むものは其性剛情にして至つて頑固である●眉長くして眼を過ぐるものは富貴にして財寶饒かなり然るに短かくして眼を覆ざるものは窮乏すること多く財を保つことが難ひ●眉の毛の中に黒子あるは才智勝れ世才に長ず然し兄弟朋友の縁薄しして頑固であること如くはなし

貞婦の相の圖



其妻必ず妊娠中である●観骨(魚尾の下俗に頬骨なり)豊満にして高く起る者は大に發達し貴賤の別なく物の頭となる●婦人の觀骨高さは女權あり女は觀骨の目立

女子の黒子の圖



を天下に揚げん●耳に黒子あるは聰明にして文才あり又好き子を生む●耳の高く引付し如きは才智あつて名聲を揚ぐ然るに低くたれたるは不仕合にして困窮を招

くの相なり、相對して向うより兩耳の見えざるは高名
天下に揚げん

の邊)に黒子あるは多淫にして夫の名を辱しむることあり●下眼ぶち水ぶくれの様に豊かに肉の高く起るは

ざるを吉とす男の觀骨は常に肉起つて潤澤なれば家業繁昌す

●法令(鼻の左右にある筋を云ふ)の筋深くして正しく左右へ開きたるは大に貴き相である官位ある人は大に榮達し普通の人も家業繁昌して幸運なり●法令の筋口に入るものは餓死することあり●鼻は五嶽の中岳にして即ち帝都の位置なり又鼻を山とし口を海とす山は高きを吉とし海は深きを吉とす故に山根より準頭に至り豊かに高く竈門露れず鼻頭圓く肉満ち血色潤はしきは富貴にして長壽の相とす●鼻に缺陷あるは大に凶なり中年にして大病なるか或は家業の衰運を招くことあり●鼻に肉なく鼻の穴仰き大に露るものは下賤の相なり●蘭臺延尉(左右の小鼻)に大小あるは望み事多くは敗れ勝である

●人中の溝深きものは子孫多し深くとも缺陷あるか横に筋などあれば必ず子孫の内かける溝淺くして分りがたきは必ず子なし●口は言語の門飲食の具以て身體を養ひ榮辱を主るところなれば宜しく端正に方潤にして唇紅いに齒白く音吐朗々として重みあるは官位ある人は其の官進み遂に一課一省の長たらん又俗人ど雖も大に家業盛大を致すべし、面大にして口小なるは才能藝術に譽れあり●口は常に目立たずして物言ふ時に潤く大なるは發達して遂に大名を爲さん

●物言ふ時に海角(口の角)垂下るは實情薄くよく他人の事を彼是言ひて人に憎まる●當門(前の大なる二枚の歯)の間すきて格好悪しきは父母の縁薄く不幸にして短命である●歯の亂れて整しからざるは言葉多くして人の事を彼是云ひ中年破財することあり●承稟地閑(下唇より頤迄の間を云ふ肉豊かに厚和なるを吉とす然るに肉薄きか缺陷あり或は亂れたる横紋あるは住

所に辛勞多く父は水難を氣を付べし●奴僕宮に缺陷あれば目下の者に縁薄し●地庫奴僕の邊肉厚く豊かなれば忠節の雇人あり●頤は肉附よく豊滿なるを吉とす然るにしやくれたる如きは住所に心配多く常に憂愁を主どる●二重頤は晩年大に吉である●頤に缺陷あるは住所の心配常に絶えず●女の結喉高きは勢つよく仕合よきも我儘にして夫を剋す

●肩は廣く平かにして圓く厚きを吉とす狭く薄きは貧賤の相である●肩に肉なく缺陷あり尖りあり又は垂下り俗に云ふなで肩なるは皆心賤しく貧困の相である●肩勝れて高きは常に傲慢にして不善事を爲し又俗に云ふすくみ肩なるものは孤獨にして貧困である●肩は左高く右低きを吉とす左右共同じきを中とし、右高くして左低きは下賤である●胸は神宮と云ひて豊かに潤く肉しまりて骨あらはれず勢あるは上相なり●胸毛あるものは見かけより勇氣に乏し●胸高く色赤黒きは短氣にして頓死することあるか或は災難あらん●兩乳の間に

廣く色紅黒にして肉柔かなるが如きは才智ありて子孫多し●兩乳の間せまきは子育ちがたく又は夭死すべし●第首の仰向きたるは生るゝ子聰明にして俯向きたるは生るゝ子暗愚なり●第首は細く長きは悪しく短きも太きを吉とす●女の乳の邊に毛あるは子なし又子あれば成人し難し●腹に垂れて袋の如きを吉とす其皮鼓の如く張るは短命なり

●臍は廣くして穴大に深きものは富貴なり又穴大きくて李に入る如きは一國の大臣宰相の位に登る●臍は上に朝すると仰向きたるものは發達の相にして下向きなるは下賤なり●臍淺くしてなきが如く或は臍飛出たる如きは子の縁薄く又は夭死する相である●背は豊滿にして平かに肉つきよく骨のあるはれざるを吉とす●背の凹なるは短命なり●セムシの背の如きは不幸薄命にして早く親に離る●腰は細き太きに係らず肉薄く骨の顯れざるを吉とす●歩行する時腰をふるものは女は夫かわり男は度々住所替る

相字由



は良夫を得て行末大に吉なれど多くは養子する相である或は貴人の家敷等に奉公に出で婦人として分外の出世を爲すものあり何れにせよ初年より中年晩年が吉であれば若き内に其心掛けをせよ

相字甲



下の言を用ひす剛情につのるときは遂に資力を失ひ中年の末より晩年へ掛け甚しく衰運に至ることあり注意すべし女子は長命なるも年老て孤獨となりて非運に陥る事あれば若き時より貯蓄に心掛けて慈善を施すべし

●此の圖の如く上尖りて下濶き相の人は初年の運勢甚だ宜しくない二十歳前後迄は辛勞多く且つ祖業に縁薄くして家を離れ孤立して大に艱難あらん然れども三十歳を越え四十歳より六十歳迄の間は運氣次第に開け目上の引立を受けて大に立身成功を爲すことあり又女子

●此の圖の如く上下尖りて中央大なる相の人は初年の運氣餘り宜しからず早くより社會の風波に漂ひ辛勞多し二十五六歳にして小運來る時に大利を得んとして反つて大失敗損失あらん注意すべし常に行動を緩かにして人に接するに温順柔和なるものは四十歳前後にして

相字申



好運あり此時に當り注意せざれば晩年の運氣大に滞ることあり宜しく氣を付べし又平常言語舉動稍もすれば過激粗暴に亘る性質のものあり慎むべし若し慎まれば刑僻に遇ふて困難することあり

相字同



●此の圖の如く上下共に厚くして長き相の人は天庭地閣共に發達宜しく最上の相格にして實に富貴繁榮の盛運である初年より中年に至り貴人長上の庇護を受け大に立身成功することあり唯に自己のみならず子女も亦た貴人大家の取立を得て終に高名を博するに至らん然

し傲慢の氣を慎しまざれば四十歳前後にして運氣の滞滯をなし大失敗を招くとあり然し晩年の運氣は隆盛にして益々子孫繁榮す其壽命も八十歳以上を保つこそを得宜しく自愛して天恵の福運を完ふすべし

相字王



く所謂好く聚るも好く散する云ふ風なれば兎角金錢は蓄積出来ず中年にして氣苦勞多き方である晩年の運氣少しく滞る氣味あれば宜しく中年にして財物を蓄積して老後の幸福の計るべし

●此の圖の如く方にして厚き相の人は富貴兩全と云ひて至つて吉相である初年より大に運勢宜しくさしたる苦勞艱難なく三十歳後にして貴人長上の引立により大ひに立身發達すべしされど五官明かならざれば縦令

相字田



富豪になるとも言語動作卑野にして更らに貴き所なく孤獨にして子女の縁薄かるべし又此相の人は顔面黒きは非運なり白き程幸運である女子は殊更ら白きは好運にして貴人の引立により大に立身出世すべし

●此の圖の如く上下方にして中央尖る相の人は初年は至極平穏無事にして奸運である殊に三十歳頃より四十歳前後に至り運氣甚だ宜しく威勢盛んにして人も羨む程の運勢であるされど至つて派手氣にして人世話も多

(177)

相字用



勢多し心して注意すべし多くは晩年孤獨の生活を營むに至る又女子も早く故郷を離れ他國にて苦勞するものあり或は遠國に縁付くことあり皮膚硬くして潤澤あるものは衣食に窮することなきも夫と生別れになる事あり

相字風



出世を爲すものあり四十歳頃より漸次好運に向ひ晩年に至るに従ひ大ひに幸福を得るのである又女は早く他郷に出て自分より身分よき所へ縁付くことあり慎しむべきは兎角兄弟の間柄の和睦せざることである

●此の圖の如く上方にして下部の骨節露はるゝ相の人は初年の運勢にはさしたる故障なきも二十歳前後か或は三十歳の頃故郷を離れ艱難辛苦して始めて大成功を爲す相である五十一二歳の頃妻に別れ子女に就きて苦遂に孤獨にして横死することあり

(176)

相字圓



●此の圖の如く上下とも圓かにして肥ゆるものは東奔西走の相格と云ひて初年より早く生家を離れ辛苦することあり殊に二十歳前後より三十歳頃迄の内に故郷を離れ此處彼處と放浪し艱難辛苦することが多い然しあ交

すも早く晩年の計を爲さざれば老年竊肺の悔あり宜しく志操を堅實にして虛名に走らず一定の業務を着實に取らば長上の引立を受けて好運の基を開き晩年大に幸福なるべし

相字目



●此の圖の如く上下大にして中小なる相の人は三移九住の相格にて初年より早く生家故郷を離れ殊に二十歳頃より住所一定せず風塵の巷に流離彷徨することあり然れども人により人々貴人に近づくことを得て意外の

手相鑑定法

●夫れ手相なるものは掌中に八宮を配し其顯れたる血色と及び其紋理と五指の長短肥瘦或は其紋理によりて吉凶福禍を豫断するのである彼の歐米に行なはる、「パーミストリー」の如き其性情を論する而已の淺薄なる掌紋術とは同日の比ではない我手相なるものは掌中の紋理八宮の血色によりて過去現在将来に渡りてよく其吉凶を知り禍福招福の一助となるのである。

先づ其判定の仕方は紋理の名稱と八宮の配當を心得ねばならぬ男子は左手女子は右手を開き見よ人指と中指との間より親指の反対の方へ弓形をなし斜に著しく太き線がある是を天紋と云ふ又親指と人指との間より斜めに下方へ向ひ俗に手首と稱する方へ向ふ太さ一線を地紋と云ふ其中間にある太き一線を人紋を云ふ

●天紋は父と自己の業務及び官邊の事を司る

- 八宮とは手首の上を坎宮となしそれより稍大指によりたる方を艮宮と云ひ大指の根元を震宮と云ひ人指の下を巽宮と云ひ中指の下を離宮と云ひ小指の下を坤宮と云ひ其下の震宮と向ひ合ひたる所を兌宮と云其下の坎宮との中間を乾宮と云ふ而して中央の凹たる所を明堂と云ふ（詳しくは圖によりて知るべし）
- 坎宮 住所と其生命の壽天を視る
- 艮宮 福徳と壽命又は物の始終を視る
- 震宮 兄弟の有無と運の善惡を視る
- 巽宮 藥能或は家業の盛衰又は世間の評判を司る
- 離宮 官邊公事或は表向きの吉凶を視る
- 坤宮 母の事妻妾の縁又女難等を視る
- 兌宮 子孫と奴僕又家内の事を視る
- 乾宮 父又は主人凡て目上の事を視る
- 右掌中八宮は何れの處にても缺陷あるか肉薄く血色宜しからざるは運氣悪しく發達立身を妨ぐと云ふ

●人紋は生命の壽天及び自己の吉凶を司る
●地紋は母と田宅地所及び住所の吉凶を司る
右の三紋は掌中に於る重要な紋理にして其の紋理正し
判定するのである

- 天紋の先さ勢よく巽宮の方へ進み登るは運氣強く家業も亦繁榮である
- 天紋の先き二筋三筋に別るゝものは親譲りの業を替るか又養子に行く相である
- 天紋の先に缺陷あるか横筋掛るは家業に障あるべし
- 天紋短きか或はちぎれ／＼なるは度々業務を變ず
- 人紋の先二筋三筋に別るは他姓を繼ぐか養子と成る
- 人紋長くして乾兌の二宮に至るものは早く親に別れるか或は子に離るゝことあり
- 人紋短きか或は浅くして太きものは貧賤にして短壽なり人紋の切々なるは度々災難に遇ふか病身なり
- 次男にして人紋の先二筋三筋に別れたるは親の跡を相續するか或は養子となる
- 地紋の筋深く正しきは住所と奴僕の縁至つて宜し
- 地紋長くして坎宮まで通したるは物に根氣強くして長命である之に反するは至つて短壽なり

手相の紋理の圖



- 地紋の外に地紋の如き紋あるは母を重ねる相である
- 地紋の先二股に別るのは他國に住むか或は親の跡
- 地紋淺くして消たる如きか或は疵あれば親の跡
- 坎宮に紅氣出づれば親の譲りを受くるか身分の取立を得るか或は田畠地所を求むることあり
- 坎宮に黒氣出れば水難か或は家内に病人あり
- 良宮に紅氣出づれば俄かに吉事來る黄潤なるは財を得色あれば困窮年を重ねて凶である
- 良宮に黒氣出づくして紅氣出で潤澤なるは多年の志望成就を得るか又は仕合せよき事を得る
- 良宮黑暗にして青筋あれば盜難に逢ふ
- 坎宮より發宮へ筋登れば遠國に往くか又故郷を去るか又は住所に付心勞多し
- 坎宮より小指の下坤宮の邊へ筋登るは外藝紋と云ふ

- 畏宮に肉起り紅潤なれば家業大に繁昌す又血色枯れて潤ひなければ一藝に達するとも不仕合なり
- 畏宮に赤氣あれば家業に付争ひあり旅に出でては不慮の災に遇ふ、青氣出れば病氣するか家業にて損失あり、黒氣出れば盜難あり、白氣出れば兄弟の愁あり
- 畏宮に肉起りて血色紅潤なれば大に功名發達を成し長上の引立あり又世間の評判至つて宜し
- 畏宮に黒氣出れば表向きの事にて難義することあり
- 白氣出づれば公難あるか判證文の間違ひあり、赤氣出れば火災の變あり、白氣出れば目上の愁ひに遇ふ
- 青氣出づれば母の縁家に愁ひあり、黒氣出れば婦人に付恥しめらる、白氣は親類の愁事を注意すべし、
- 癸宮に肉起り潤しき色出づるは妻を持つか養子する

か何れ子孫相續の慶び事あり

● 癸宮に黒氣出れば奴僕の爲に難澁す又は相續する子に離れる事あり、青氣は目下の者の損失、赤氣出れば子孫に付訴訟を起す、白氣は子に離ることあり、乾宮に潤びありて紅色あれば身分昇進し家業繁昌す、乾宮に青氣出れば官邊の咎めか目上の怒に觸る、赤氣出れば大に宜し財を得るか志望叶ふことあり黄潤は吉に見えて愁ひか病ひを司る●手の甲肉厚く高圓なるは自分に家を起し名を揚ぐ●手の甲赤黒く腕首より内色白きは良運にして發達す●指太く短きは下賤の相貴人と雖も其心卑劣なり●指と指の間透者は散財す●人指と中指と離れ透者は親子相別る●中指は左右よりびつたりと守を吉とす●中指の短ものは正直なれども物の役に立ず●婦人の中指無名指に重なる如は女權強き婦人なり●小指に疵あるか或は曲れるは片意地なり

●姓名名前^{なま}の付け方^{かた}

良名を撰ばねばならぬ理由^{ゆう}

●姓名を以て運命を判断することは古くより支那にては行はれ、又我國にても往昔より武家にても其名諱りを付けるに當り相生の文字を撰みて令名を名付けしものである、されば左傳に仲儒の言として名を名づくるに五法あり、國を以てせず、官を以てせず、山川を以てせず、畜生を以てせず、陰疾を以てせず、など唱えてあるし、又我國にても其名の惡しき爲に一家一門の不和を生じ、甚しき禍ひを蒙りし例も古書にて屢見受くる所である、然るに後世に至りては其名を撰ぶと云ふことが忽せとなりて數奇薄倖の生涯を送るものが多い宜しく注意すべきである、それ故に古語にも、名は實の賓とか、名實相應すとか、或は名詮自性などと稱されてあれば其命名せられし名が自から暗示となりて

恰も影の形に隨ふごとく寸時も離ることなき故に感應して、遂に其氣質に變じ、運命を支配して各人將來の吉凶禍福を司るものであるされば生兒の將來をして長壽にして幸福ならしめ、又自己の運命を開拓せんと欲するの士は宜しく令名を撰びて名付けなければならぬ、茲に於て姓名を判断して其吉凶を知り又は撰名して將來の幸福を希ふと云ふことが必要である

●姓名鑑定^{かくてい}及^そ撰名^{はうし}の方式^{かた}

●姓名を鑑定せんとする時は次に記す條項によりて其姓名を解剖して判断するのである、尙ほ良名を撰ばんとする時は、やはり次の條項に遵ひて令名を撰定するのである、さて其條項は次の五ヶ條である

●姓名の文字護下しの意義^{いぎ} ●乾坤(或は陰陽)の配置^{はいり} ●天地の配置 ●五氣の配合 ●姓名字劃の運數を合せて判断するのである。

●姓名讀下しの意義^{いぎ}

●姓と名との意義貫通したるを云ふのである、姓とはカバネと云ふ家の尊卑を次第するものなり、氏は内なり、族類を分つの稱として用ふと古書に見えてをる、丁度我肉體に祖先の血の通ひ居る如く實に祖先より受け續ぎしころのものなれば自分の名も是と意義相反せざるよう心掛け善良なるものを撰みて發達成功を計らねばならぬのである。

さて其意義貫通の例として古來よりの名士傑人等の名に就て研究せらるゝがよい今其一例として

大山巖^{おほやまわら}

大なる山も巖々たる岩より成立實に其不動巍然たる様子も聯想せらる

右の如く姓名を通じて一つの文章と見なして其意義の相反せざる様なすのである

●又名の文字に春、夏、秋、冬或は動植物の名を配す人間々あるも、斯の如きは天地に象ぞりたる姓名の意義を没却して終身の不幸を招くのである

それ故に男子にして熊藏、虎造の如き或は春太郎、秋造の如き皆宜しくない、又捨、留なども凶である、なほ文平、薰平、壽平、治平の如きは多くは發狂短命、破産、貧困等に陥ることがある

又女子にして春、夏、秋、冬、仲、文、糸、末、留、雪、霜、松、竹、梅、龍、豊、千代、喜代、菊、隅、等の名は多くは鰥寡孤獨にして親子の縁薄く、夫に別れ終身苦勞難多き凶名である

又、一郎、二郎の如き名は不幸多く刑罰に觸るゝか、

徳川光圀

其人の仁德は川の如く流れて止む時
幸福の原は信實にありとの意なれば
其人の世に立つて行ふ所も聯想すべ
きである

● ○○●、○●○●○●、●○●○●○
右の如き配置は變化全く斷絶したる象なれば甚だ凶惡なるが故に、短命、聾、啞、盲目等の不具、或は病身勝にて不愉快なる光陰を送るか、發狂、刑罰、頓死、非業の死を招くとがある、其輕きも蛟肌、脇臭、又は氣違染みたる行爲多き人である

○○、●●、○○○、●●●、○○○○、●●●●、
○○○○○、●●●●、○○○○○○、●●●●●、
右の如き配置は全然變化なき象なれば大凶惡にして、前記以上の凶災あるものなれば短命、貧困、窮厄、刑罰、或は非業の死を遂ぐる事多し、稀れに一時成功爲すものあるも中年以後必ず困難に陥るものである

●天 地 の 配 置

●姓名學にては姓を天とし、名を地とし、其人と共に天地人三才に象るのである、而して天は陽にして、地

は陰なれば易の參天兩地に基き、天なる姓の頭字の割數が、地なる名の割數より一割にても二割にても多きを以て、順を得たるものとして姓名學上最善の配置とするのである、然し其割數は全割數の多少を論ずるのではなくして十割は零數として除く故に何十割あらうとも十以上の數を省きて其配置を見るのである例えば大倉喜八郎と云ふ姓名は姓の頭の字は三割にして名の頭字の喜の字は十二割なれば、其十を省きて残りの二と姓の頭字の數三とを較ぶれば天なる姓の頭字の數一割多し之れ大吉なり、而して尚ほ姓の頭字偶數なれば名の頭字偶數に、姓の頭字偶數なばれ名の頭字奇數なるをよろしこす、是れ陰陽相和するの理による故である、なほ一二の例を挙げて之を示めそう

石 五 十九 十二 博 文
伊 六 四 十四 博 文
井 四 十八 十二 博 文
謹 七

右の例によれば伊は六割にして博は十二割なれども十を省けば二なり、因つて吉とす、又次の石は五割にして謹は十八割なれば十を省くもなは八なれば凶とするのである、又天と地と同數は凶である、もし又姓の頭字十の零數の時は其の下の字割數を以て見るのである

●五 氣 の 配 合

●五氣の配合とは文字が有する木火土金水の性によりて其姓名に於ける配合の良否により性質其他有形無形の利害得失を知るのである、而して文字の有する五氣とは其文字の音の第一の發音によりて之を別ける

カキクケコ 牙音 木性
タチツテト 舌音 火性
ナニヌネノ 舌音 火性
ラリルレロ

以上の一例によりて示すごとく、文字の第一の發音がカキクケコのうちなれば木性の文字である、例えは高は音コウなれば木性である、又近は音キンなればやはり木性である、なほ詳しく例を以て示せば

火 德 金 川 家 木 康 カ
の如くである、而して姓名學上五氣の配合は相生をのみ吉とせずして、相尅を以て吉とするもある、その譯は相生なることは至極よきことなれども相生は鬼角を温厚因循に流れ進取の氣象に乏しき故に相尅の衝突に

アイウエオ
ヤイユエヨ 喉音 土性
ワキウエヲ
サシスセソ 齒音 金性
ハヒフヘホ 舌音 水性
マミムメモ

よりて活動心を喚起して、以て一方に遍せしめざるのである、それ故に金金の姓には火火と組むとか、木木の姓に金金と組むが如きを宜とするのである。

●配合の方式

金金火火	木木水水	金金土土	金金木木
土土木木	金金水水	火火木木	土土水水
土土火火			

以上の配合は温厚にして才幹秀びるか又は豪毅にして果断に富み、何事も敏活に大業を成就する性である、

火金火金	金水金水	金木金木	水水水
木木	水土水土	火土火土	火火水火火
火木火木木	土金土金	水火水火火	

以上の配合は至つて忍耐にして萬難を排して、大事業を成し遂げ、又高尚にして智略あるも自ら尊大振らずして人より尊敬せらるるのである

なほ此組合せは上下になるも、やはり同一の意義を有するものである

火金火	土木木土	木金金木	木火火木
火土土火	水土土水	金水水金	金木木金
水木木水	木火火木	土水水土	火木木火

以上の配合は意志堅固なれば物事中途にて變することなく貫徹し、又整理心に富む故に物事の整頓したるを好む性の人である

木火土水	水金土火	金木土火	土金水火
水金木火	金木水火		
木火土水	木木火火土	土金金水	火火火金

以上の配合は性質善良にして一徹なるが、或は反対に怠惰にして物事熱心を缺き、事を爲す前に兎角躊躇する氣味ある人である

火火火水	火火火土	金金金水	火火火金
木火土金水	木木火火土	土金金水水	水水金
金木			

以上の配合は大凶悪なれば刑罰、發狂、困厄に陥るか又は惡意惡業の爲に身を滅すことがある

●五氣の配合によりて特有の病の見方

●木性の人	胃腸の病
●火性の人	心臟病、腦病、眼病
●土性の人	骨の痛み、筋の釣り、子宮病
●金性の人	肺病、腎臟病、眼病
●水性の人	腎臟病、腦病、水腫

以上は名の頭字の五氣の配合にて見るのである

●姓名字劃の運數

金金金火	金金金土	火火火木	金金金木
木木木火	木木木水	土土土火	
水水水土	木木木金	土土土金	
水水水木	木木木土	土土土木	水水水
以上	の	の	の
配合	は	は	は
智識	あ	あ	あ
勇氣	あ	あ	あ
一生	を	通	じ
死	じ	じ	じ
計	る	る	る
人生	を	通	じ
死	じ	じ	じ
計	る	る	る
狂	う	う	う
狂	う	う	う
争闘	あ	あ	あ
争闘	あ	あ	あ
刑罰	け	け	け
発狂	は	は	は
火難	か	か	か
水難	す	す	す

以上の配合は智識あり、勇氣ある人と雖も、兎角困難多く一生を通じて生死計るべからざる災厄二三度あるか、或は争闘、刑罰、発狂、火難、水難等の憂があるのである

木木木木	金金金金	火火火火	水水水水
土土土土			

以上の配合は智識あり、勇氣ある人と雖も、兎角困難多く一生を通じて生死計るべからざる災厄二三度あるか、或は争闘、刑罰、発狂、火難、水難等の憂があるのである

姓名字の運勢は姓名學上大切のものにして、一生、

の運不運、幸不幸は皆是によりて鑑別することが出来るものである、天地間の物一として數の支配を受けないものはない、上は日月星辰の運行より、下は人事日用の難事に至る迄皆數に由るのである、それ故に物あれば數あり、數あれば變あり、相持して吉凶禍福を生ずるのである。

次に姓名學上運命を測る數の吉凶を示さん

●大吉の字劃運數

一、三、五、六、七、八、十一、十三、十五、十六、十七、十八、二十一、二十三、二十四、二十五、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十五、三十七、三十九、四十、四十一、四十二、四十五、四十七、四十八、五十二、五十五、五十七、五十八、六十一、六十三、六十五、六十七、六十八、七十一、七十三、七十五、七十七、八十一

姓の數も、名の數も凶數なるもの
姓の數と、名の數と同數なるもの
これは最も忌み嫌ふのである
又、十、二十、或は、五十、六十、七十、八十の如き零數は凶である、若しも姓と名と同數にして總劃數零數なるときは三十、四十の如き吉數と雖も凶となるものである
故に改名等に當りては名の吉數を撰ぶは勿論、姓名總劃數の吉數を撰びて天賦の幸福を享け、富貴延命に子孫の繁榮を計るべきである

一、天長地久と貴重す可き吉數にして、萬象萬彙の基なれば、無事平安の幸運にして、海上波なきの意で至つて穩かなる吉數である

二、進退の自由を失し、平和を欠き、艱難辛苦、多く至つて困難を司る凶運である

三、自然の幸福を享け、名利共に行はれ、諸事意の如

二、四、九、十、十二、十四、十九、二十、二十二、二十六、二十七、二十八、三十四、三十六、三十八、四十三、四十四、四十六、四十九、五十、五十一、五十三、五十四、五十六、五十九、六十、六十二、六十四、六十六、六十九、七十、七十二、七十四、七十六、七十八、七十九、八十

以上の數は如何なる運命を司るかを次に示さん

●字劃運數吉凶の説明

●字劃運數の吉凶を説明するに當り注意すべきことは姓は天にして祖先より受けつぎしもの、名は地にして自己に至り始めて名付けしものなれば、もし其姓の字劃數凶なるときは名の吉數を以て之を輔けて良數となし自己の運命を開拓せねばならぬ、それに就ては

くになり、立身出世をなすの幸運である

四、物事を遂行せんとするに身體の自由精神の活動に障りありて不運不行に且つ苦辛困難多く萬事に支障多き凶運の數である

五、陰陽和合の數にして、草木の種子春陽に逢ふて、發生するが如く次第に幸福を享け、子孫に到るまで家庭圓滿に富貴繁榮を極む可き幸運數である

六、堅固なる天德を有する吉祥の數にして家運盛大、萬寶の家門に集まり子孫繁榮に及ぶと云ふ、最も稀なる所の祥運である

七、内外不和にして多少困難あるも、夫を意とせず、萬難を排して物事を整理し、成功す可き幸運である

八、志操堅固にして進取の力強く、名實を守り衆望を得、有為活潑にして敏捷に立働き物事至難こせずして成功す可き幸運數である

九、凶惡の數にして人との交際永く續かず、又親兄弟

に縁薄く、至つて短命である
十、物事空虚となるが如き意ありて困難苦辛多く、何時も苦勞堪へざるの運命である、殊に九十の數の人には長上者に運あしく、已れ短命となるの恐れあり
十一、陰陽和合して天賦の温和幸福を享け、次第に富貴繁榮を極むる幸運の吉數である
十二、物事發達する意なく至つて困難多く、晩年は意外の災難あるか或は寡婦孤獨となる凶運數である
十三、智謀才略ありて、如何なる難事も至難とせず、巧みに切り抜け得る吉數にして何事をなすも終甚だ宜しく、自然の富貴幸福を享くる幸運數である
十四、何事をなすも不足勝にして、意を充たすことなく、才力金力共に乏しく、亦は勞しても効なく極めて世に顯はれざるの凶運數である
十五、富貴幸福にして位ひ高き人の恵を受け、破竹の勢ひを以て立身出世、功名をなす運數である

事而已にて終りをなす、大艱難大苦辛ある運命なり
二十三、人の頭となる可き數にして、百事能く勝を制し、大志大業を貫徹する、運命を有するの數なり
二十四、多少の艱難苦辛を免れざるも必らず大志を達し名を輝かし遂には富貴幸福を得可き幸運數なり
二十五、利益問題の爲に他人と平和を欠くことあるも資性穎敏にして大功を奏するの上運なり
二十六、大凶惡の數にして大艱難多くして、一生中平安を得ることなく、恰も大洋に漂ふ舟の如く何時も苦勞而已多き貧窮の數なり
二十七、壯年中は名利共に得ることあるも、中年後に損失失敗多く甚しき凶數である
二十八、凶惡の數にして、遭難の意を含む故に刑罰に係ることあるか、火難、水難等の災害あるか若しくは非業の死を遂ぐることあり
二十九、奏功無比の吉數にして、大志大業を有し、名

十六、頭梁となる可き數にして、能く衆望を集め、大事業を爲し遂げ得る、貴重すべき幸運數である
十七、權威強くして自己の一存を貫徹せんとする、氣象盛んにして、大志大業を爲し遂げ得る幸運である
十八、勢力權力共に備はりて一度立てたる志望を貫徹し、大事大業を成就し社會の上流に立ちて、名利を博す可き幸運數である

十九、新たに大業を爲さんとする精力あるも、内外平和を得ずして、困難苦辛多き凶運なり
二十、一生大困難ある凶數にして、大事を爲さんとする志望を有するも、萬事障礙多く終生を完ふする能はず、甚だ凶運なり
二十一、頭領數にして富貴繁榮の吉數なり、多少の苦辛あるも家を起し身を成し、衆人に尊敬せらるゝ大人物となる幸運數である
二十二、百事意の如く行はれず、困難多く終生不足の成功す可き上運數である

譽を博す貴重の運命數である
三十、吉凶相半するの運數にして艱難と幸福と相伴ひ中運なれども至つて浮沈の多き數である
三十一、萬難に逢ふも決して屈することなく必ず大業を成し遂げ、富貴幸福を得べき吉祥の運數である
三十二、時を得ば長上の庇護を受け破竹の勢ひを以て成功す可き上運數である
三十三、剛毅果斷に物事を遂行處断する故に旭日天に昇るの勢を得て、大功を奏するの運數である
三十四、凶惡の運數にして終身幸福を得ることなく大艱難大苦辛となり、又意外の災害に逢ふことがある
三十五、大事大業を爲さんとする志望あるも、上位を保つ可き權威に乏しく終生艱難辛苦多き運數である
三十六、不運不幸の大凶惡數なるが故に大艱難大苦辛ありて晩年大ひに貧困に陥る運命數である
三十七、奏功無比の幸運にして、天賦の幸福を享け、

志望を得て、名を四方に舉ぐることを得、されば政治家行政官の如きに適したる運數である。三十八、大志大業を遂行せんとするも、衆を統率するの勢力なく一時は成功することあるも晩年に至つて困難多き運數である。

三十九、貴重の運命にして、威權と財産と長命の三徳を保ち、永く富貴幸福を子孫に傳ふる運數である、而し姓の二十名十九となるが如きは凶惡である。

四十、智謀抜群にして百事意の如く運び上運なるも、傲慢不遜の行為あるときは晩年世間の批難攻撃を受け大敗を招く可き運數である。

四十一、大豪毅大才子にして、必らず大志大業を爲し遂げ、大高名の人となる可き運數である。

四十二、博識にして發明心に富み、才能技藝ありて、高尚の運命なれども、餘り物事に巧みなるが故に反つて萬能は一藝に如かずと云ふ諺の如く困難苦辛、

多き運數である。

四十三、才智藝能あるも、確實の志操に乏しく信用を失して、他人の嗤ひものとなる運數である。

四十四、大凶惡の數にして、終身貧苦艱難に苦しむ故に稀れには大偉人を生ずることがある、古來不出世の英雄抔は、是等の數より出でたものが多い。

四十五、大計畫を抱き、大志大業を貫徹す可き幸運にして、多少の支障あるも萬難を排して、名利併せ有する成功運數である。

四十六、大凶惡の數にして、何事をなすも勢力に乏しく大困難大苦辛ある凶運數である。

四十七、一家和合團欒して互に一致し家富み榮へ、富貴幸福を子孫に傳ふるの幸運數である。

四十八、智謀才能ありて他人の信用を得極めて幸福な

る運命數である

四十九、一度吉運來たることあるも遂には大凶の來る運數にして、災難打續き變轉極まりなき運數である。

五十、大業を爲し、金錢財寶を集め一時隆盛を極むるとも、大艱難に逢ひ、一家一身を亡ぼす運數である。

五十一、天賦の幸福を受け、一生中一回は名利共に得られ、富貴に至るも晩年困難苦辛ある運數である。

五十二、無形より有形を造り出すと云ふ運數にして投機心盛に且新事業を好み先見を立つる事、明かにして大事業に成功する運數である。

五十三、薄倖の人にして萬事に障碍起り易く、大失敗となる悲しき運命の人にして、遂には破産等の厄に係り晩年に到る程貧苦を増す運數である。

五十五、中運なれど堅固の意志あれば、物事は充分に

運び爲めに意想外なる繁榮をなす運數である。

五十六、諸事心算と齟齬し、世に後れ物事遂行せんとするの氣力に乏しく損失災難ある運數である。

五十七、一生中一回は生死計られざる大難に逢ひ、大ひに辛苦するも、危難を免れ、百事意の如く行はれ富貴幸福を得可き運數である。

五十八、一生中二三回は、破産することあるも自分の力にて困厄を挽回し、忽ち再興の幸運となし幸福の終生を送る運數である。

五十九、忍耐力と勇氣なき爲め損失災難に係り易く、それが爲に破産亡家に至る運數である。

六十、物事目的なく着手するものゝ如く、何事に對するも成功する事能はざる運數である。

晩年には自然に富貴繁榮を極む可き運數である。

六十二、他人との交際兎角不和にして信用に乏しく志望を達すること能はず、家運次第に衰頗し晩年大ひに困難する凶數である。

六十三、地徳の萬物を養成するごとく物事不自由なく富貴幸福を子孫に傳ふる幸運數である。

六十四、浮沈多き凶運にして、家内中に種々なる苦情起り、それが爲め常に苦心の絶ゆることなく、生涯安樂に生活すること能はざる運數である。

六十五、萬事意の如くなる運數にして、何等苦心することなく、富貴隆盛を極む可き運數である。

六十六、家内に病難堪へず、或は一家離散し損失、遭難、短命發狂等を招く凶數である。

六十七、長上の助けを得て物事實行に當り障礙なく、自立獨行して、富貴幸福となる可き幸運の數である。

六十八、大智大能を有し、衆望を受くる吉數である、故に僧侶の如きは名僧として衆人に尊敬せらる

て、破産亡家の厄に逢ふ可き運數である。

七十七、壯年中年は浮沈多く一時繁榮なすことあるも晩年大困難ある凶數である。

七八、自然に富貴幸福を得るも、中年より次第に衰頗して、晩年に困難ある運數である。

七十九、身體健全にして幸福なるも、無節操にして、物事實行する氣力なく、無能の人なる運數である。

八十、終身難苦多き凶運數なれども、晩年隱退せば其厄を免れ、幸福を得べきである。

八十一、自然の幸福を受け、萬事意の如く運びて隆盛を極むる運數である。

八十二、劃以上、又元へ返り其總劃數より八十一を除きて残りを一劃二劃と勘定するのである、是は天地間の數は一より九まで十となれば零數である、そこで此の九と、ふ數を相乗して大衍し八十一としたのである。

名乘字集

一劃	陽性	二劃	陰性
大火	又土	乙土	一土
二火	刀火	人金	十金
寸金	八水	三金	水金
子金	上金	女火	山金
丸木	下木	久木	己木
万水	工木	小金	之金
公木	巳土	才金	仁金
天火	也土	大金	川金
太火	土	水金	中火
木水		水金	水金

四劃 隅性

天火	太火	木水	水金
公木	天火	水金	水金
丸木	木水	水金	水金
万水	水金	水金	水金
子金	水金	水金	水金
大火	水金	水金	水金
二火	水金	水金	水金
寸金	水金	水金	水金
人金	水金	水金	水金
十金	水金	水金	水金
刀火	水金	水金	水金
上金	水金	水金	水金
下木	水金	水金	水金
工木	水金	水金	水金
巳土	水金	水金	水金
也土	水金	水金	水金
土	水金	水金	水金
水	水金	水金	水金

六十九、病難災難交に來りて、一生不安の凶數である。

七十、短命、啞、盲目、癪疾等不具の人となる可き甚だしき凶運數である。

七十二、中年は浮沈外く晩年に破産亡家の災厄に係りて、老後困窮の凶數である。

七十三、大志を有するのみにして是れを實行せんとする意志に乏しきも自然の幸福ありて一生を安樂に保ち行く吉祥の運數である。

七十四、無智無能の人となりて世に用ひらることなく、修身不遇に世を終る可き凶運數である。

七十五、自然の富貴幸福ある運數なれども自ら進むで大事業を成さんとするときは反つて損失を受くるが故に他人の意見に從ひ萬事を爲すを最も有利とする。

七十六、如何なる大金滿家に生るゝも、次第に衰頗し

●命名や撰名したる時の心得

●子供の生れた時に名付けるのを命名と云ひ、生長したる後、名前を変更するのを改名と稱するのである、何れにしても其人將來の健康、幸福を増進せんが爲に良名を撰するものなれば、貴賤貧富の別なく其身分に應じたる儀禮を設けて祝福の意を表するがよい

●まづ命名の場合を云はんに、國の東西古今を問はず又其身分には貴賤貧富の別あるども、生れたる子供の將來には、幸福多からんとを希はざるものは一人もないのである、それ故なるべく吉祥の文字を撰みて之に名付け生長の後は他より優れて、社會に名聲を輝かかし、財産を増殖せんとを欲するは、親たるもののが望にして、又一つの責務である

我國の法律上出産の届出は、十四日内に届出で、其届書には、出生子の男女の別と氏名とを明記すべきとが規定されてある、それ故其期間内に命名して届出すれば差支えあらざるも、古來より民間一般の習慣とし

十五劃 齊金	火	輔水	豪木
十六劃 賢木	德火	禎火	綱木
十七劃 積金	養土	範水	慶木
十八劃 應土	豫土	節金	增金
十九劃 識木	賴火	慧木	慶木
二十劃 繢金	靜金	木	豪木
二十一劃 謙木	濟金	鎮火	輔水
二十二劃 警木	齋水	篤火	禎火
二十三劃 勸木	鑑木	憲木	慶木
二十四劃 聰木	勸火	確木	禎火
二十五劃 護木	穎土	謙木	輔水
二十六劃 警木	穎土	謙木	禎火
二十七劃 賴木	穎土	謙木	禎火
二十八劃 識木	穎土	謙木	禎火
二十九劃 識木	穎土	謙木	禎火
三十劃 識木	穎土	謙木	禎火

數字の讀下しの義

- 一、收むる集める始める散す
- 二、重ねる叛く再す
- 三、集る交る四、合する
- 五、走る進む六、收むる
- 七、整える正す八、聞く
- 九、散する亡ぶ十、満す
- 合す重る

ては七夜（生れてより七日目）には、其生子に名付けたる名前を紙に書して神前、又は床の間其他清淨なる處にて來訪の人目の前に付き易き處に貼り置き、親戚其他知己の人々に之を示すとなつてをる、故になるべくは七夜迄に名付ける様せらるゝがよい、さて其命名を書く方式も、往昔典禮儀式の嚴格なりし時代には名付け親なるものありて、其式法も甚だ壯嚴に執行せられしも、現今の如く生活狀態の復雜なる社會組織にては、斯ることも皆簡易を旨とし、要は不謹慎に渉らざる範圍を以てなさるがよい

まづ出生兒のありたる場合は、本書選名法則に隨ひ、五行配置、陰陽配置、字劃運數、天地配置、讀下字義等皆完備したる良名を選び、奉書、美濃、杉原等の清淨なる紙に、次の書式に則りて之を書し、神棚又は床の間其他の清淨なる處に貼り置くがよい、もし親戚知己を招きて祝宴を爲す際は其正面に貼り置く様せらるゝがよい

大正何年何月何日午前(又は午後)何時何分出生
父 何 誰 改名ノ際ハ父母ノ名ハ
母 何 誰 書クニ及バズ

命名 ○○○○

出生子ノ名改名シタル際ハ
其選ピタル良名

鶴壽龜齡萬々年

右の鶴壽龜齡の句を、如松茂如竹包齡萬々年と
雅ひて書くともある、何れにしても其子の將來を祝福
するのである、又生長の後良名に改めた際は、右に徴
ふて書かるゝがよい

附言

姓名學に就て世人の誤解

一度姓名學の唱導せられしより、既に久しき歲月を
経たれば、現今には都鄙の別なく之を信するもの夥
多きも、希れには改名をなしながら其効果の薄きを疑
ひ、又姓名學は徒らに名を神祕的に借りて、荒誕無稽
の事を説くものであると説るものもある

それ等の人の言ふところは

第一 姓名は假りに人の名付けたるものにして、
天賦のものではない、それ故人によりて如何なる名
にても付るが出来る、然らば斯るものによつて自己
の運命を左右せらるゝ様なとは云ふ説と
第二 假りに改名によつて、不幸薄運の人人が良運
に赴くとしても、戸籍上改名手續は甚だ繁雑にして

●自ら選名なし能はざる人の爲に

●姓名構成の要素は、第一姓名讀下意義、第二姓名字
劃運數、第三陰陽配置、第四五氣配置、第五天地配置
の五項目である、そのうち第一、第二、第三が凶なる
場合は、縱令へ第四第五が吉なりとも、決して健康や
開運は得られない、又字義の讀下には、同じくヨシと
折角の良名も姓と調和せずして反対の結果を招くとが
ある、現今の如く生存競争激甚の際には、此姓名學は
大ひに意義あるものとは知りながら、自分の職務多忙
の爲め、自ら選名爲し能はざる人、及び其生兒の將來
の幸福を希ふ諸君の爲に本館にては選名料金三圓、
屋號又は雅號選名料金五圓を以て選名の依頼に應する
が故に希望の方は右金額を添え御申込なさるがよい。

右は何れも一應尤もな説である、されど吾輩より云ふ
ときは、是等の人々は未だ充分に姓名學なるものゝ眞
髓を知らず皮相の見解を下すが故、右様の説を吐くの
である。よつて茲には名が其人の運命に及ぼす影響と
通稱として改名なしても運命開發に効果あると、及び
戸籍上改名の手續を爲さんとする場合、其取るべき
手段等を附記して諸士の参考とするのである

●文字には神祕的威力がある

●凡て名は其物の性質を表はすものにて、物あれば名
ありとは千古不磨の言である、其名を文字即ち漢字に
て書き表はすときは、それによつて吉凶の判断をなす

とが出来る、元來文字には神秘的の力を有するが故に、佛者は悉曇即ち梵字に神秘力ある爲め、之を教義上、實踐上貴重なるものとして、呪符其他に用ゐるは、皆是れ文字の神秘的威力を認めたる結果である。

斯の如く文字に特殊神秘的威力あるが故に、其文字によつて組立たる人の姓名にも、特殊神秘的威力があつて其姓名を有する人に、氣質運命を支配するは必然の理である、然し斯く云ふときは或人は云はん、然らば敢て良姓名を有せずとも、常に良吉の文字を紙片に書して懷中なし居れば、自ら其文字の神秘的威力の影響を受けて、良運に赴くであらうと謂はんが、これは其一を知つて其二を知らざる説である。

凡そ人は習慣蓄積の力、即ち長き間に於ける暗示によりて、氣質及び運勢を善良に誘導することが出来る、譬えば茲に兒童を教育するに當つて、常にお前は馬鹿だお前は馬鹿だと云ふて居ると、其子供は已れは馬鹿だ迄使用し來れる自己の名が、因名なりしを覺れる場合は之を改めんとするも、戸籍上改名の手續き繁雑なる爲め、其改名を躊躇するものがある、そは甚だ謂れなきことにして、名の運命に及ぼす影響は常に稱呼し使用するによつて來るものなれば、敢て戸籍面の變更をなさずとも、通稱即ち呼び名を改め精神的に出来る丈の範圍内に於て、なるべく廣く其改名を用ゆる様なすがよい、(公事上の事には本名即ち戸籍名を用ゆべし)又實印は改印なすに繁雑なる手續を要せざるが故に、改名の文字に改めて使用なすときは、人も之を認め、自己も精神的に於て其改名の暗示を受くると多きが故に、自然の誘導によりて幸運に赴くのである、斯く云ふときは或ひは云はん、戸籍面の改名を爲さずして唯通稱のみを善良になすとも、名によつて運命に及ぼす影響は甚だ薄かるべしと、吾輩は斯る人に一例を示して之を證せんとするのである。

假りに茲に一人の畫家がある、其人天才是非凡にして其作品に群を抜くも、轉軒不遇にして世に容れられざりしが、一朝悟るところありて其雅號を變更なせしに忽ち名聲は朝野に喧傳せられ、其作品は都鄙に普く稱揚せらるゝに至りしとせんか、之れに就て思え、雅號は戸籍上の實名に非ずして、此畫家の通稱即ち呼び名である、其他人より稱呼せられ、自己も亦實の賓として使用せし雅號(即ち此畫家の通稱)が、姓名構成上の當を失したるが爲に、知らず知らず其影響を受け役々勞々東索西求するも、其作品を社會に認識せらるゝと能はずして、空しく窮屈に悲嘆せしが、一朝雅號を博するに至つたのである、斯る例は世間夥多あれば少しく注意して天下に名聲ある人々に就て調べなば、其實證の灼乎たるに驚くであらふ

と自覺して遂には本當の馬鹿になつて仕舞ふ、之に反して此兒は伶俐だ器用であると、常に賞めて勵ます様にするときは、自然何時とはなしに器用な兒になるのである、然らば生れてより死する迄呼ばれる姓名が、神秘的威力を有する文字より成立つてをるとすれば、其人の身の上に何等かの働きを現はし、氣質の變化、運勢の禍福、生命の壽夭に影響すると云ふことは否定するとが出來ないのである。

然らば姓名を構成する處の文字に、神秘的威力があつて其暗示によりて、吾人の運命性質に大なる影響があるとすれば、茲に姓名判断法の存在するとも亦認めることが出来るのである。

●通稱として良名は用ひてよい

●出產した子女に對し、其將來の榮達幸福を祝福して良名を命名する場合は別として、相當の年配となり是

又古來より賢者名僧、英雄偉人等にして、向上せんとして其名を改め、益々發展したる例は枚舉に遑あらずである。著しき例は日吉丸より木下藤吉郎となり、羽柴秀吉となり豊臣秀吉となりたるが如き、如何に彼が名の爲に苦心したるかを想像することが出来る。

然らば已れの運命を開拓して、大なる成功を贏ち得んとする諸土は、業の農工商を論せず、よろしく凶名は良名に改むべきである。

其改名に當つては戸籍上の實名は其儘となし置き、通稱に良名を選擇して、常に稱呼なす様なれば自ら其暗示誘導によりて、身體は強健に功名利達并び行はれ人の羨む大成功を得るに至るであらう。

●戸籍上氏名変更の手續

●戸籍に於ける姓名（法律上には氏名と云ふ）に關しては、凡て法律に規定せられたる法規に依らざるべ

からざるが故に、戸籍上姓名変更の手續をなさんとするには、先づ姓名に關する法規、例へば戸籍法の如き民法上の條文を明かにして、其解釋適用を誤らざると

往昔徳川幕府時代には、各自自由に改名をなせしも、

明治維新後法律を以て之を禁止したのである、それには數々なる理由も存するが、假りに何人にも意に任せ改姓、改名が自由に易々と出来るときには、詐欺横領其他の惡事を爲したるものが、其舊惡を隠蔽しながら爲に、一人にて屢々姓名を變更なすときは、社會は非常なる迷惑と困難とを感するであらう、故に國家の安寧は破壊せられ、秩序を維持する上に於て統治者は法律上の改名を許さざるを以て根本の方針とし、即ち明治五年に於て大政官布告第二百三十五號を發したのである、然しながら同布告の但書には「同苗同名等無餘儀差支有之者ハ管轄廳へ改名可願出事」と記して

特殊の場合には、之を許可すべきことを明記してある
其特殊の場合とは

●改姓（姓を變更すること）

第一 家族たる者が授爵せられ、且自己の屬する戸主よりして一家を創立することを許されたる場合

第二 他家へ婚姻又は養子縁組により戸籍を移入したる後、實家が廢家或は絶家となりしたため、其婚姻したる家或は養子縁組したる家より離籍、離婚、又は離縁せられたるにより復籍する事能はざる場合

第三 家族が戸主の同意を得ずして、婚姻或は養子縁組を爲せしに依り、元の家より離縁せられ或は復籍を拒絶せられし後に、其縁組先又は婚姻先の家より離婚又は離縁せられたる爲め、復籍する事能はざる場合

第四 家族たるもののが戸主を失ひたる場合

第五 家族の私生兒が戸主の同意なき爲め、其家に入籍する事能はざる場合

第六 戸主が家族の居所を指定したるに、其家族たる者が之に背反したる爲め、其家より離籍せられたる場合

是等の場合は何れも一定の書式により、市町村區長に届出で、一家を創立し、自由に改姓する事が出来るのである、然し第一より第五迄は特殊の事情ある場合にして、誰人にも一般に之を爲す事は不可能であるされど第六の場合のみは誰人にも之を作し、改姓の目的を達する事が出来る、今其方法を説明すれば、改姓せんとする家族は（もし現在戸主たるものは隠居等の方法によりて一端家族となるのである）自己の屬する戸主と居處を異にし、内容證明郵便等にて戸主に對し現在住居しつゝある場所と異なる居所を指定せしめ、又數日後其指定の場所に轉居すべき旨の催告を發せし

(210) め、然してそれに從はずして先づ離籍せらるべし、即ち離籍せられたるものは法律上一家を創設せざるべきであるを以て、其離籍せられたる後十日以内に一家を創立し、新姓を稱すべき旨を届け出づるのである。

然し改姓は、家族制度たる我國の臣民としては、法律上、道德上甚だ不穩當のとなれば、萬已むを得ざる場合は格別、好むで爲るべき行爲ではない、況して、因姓は吉名を以て之を補ひ、其善良を計るを姓名學上の原則となすが故、なるべく良名を撰びて改姓等は振りに爲さざるを可とするのである。

改名（名を變更すること）

●改名即ち名を變更する事は、國法の原則として許さざるとなれど、吾人各自の事情によつて已むを得ざる特殊の場合は之を許さるゝである。

其特殊の場合とは

是等の願書が凡て其戸籍を有する郡市區長宛に差出すのである

第一例

改名願

富山縣上新川郡大久保村字下大久保
六十三番地戸主賣藥業

中野敬藏

右者多年賣藥業ヲ營ミ居リ益々世ノ信用ヲ博シ殆ド全國ニ涉リ顧客ヲ有スル盛況ヲ觀ルニ至リシニ今回富山市ニ於テ同氏名ノ同種營業者現ハレ彼我誤認セラル、場合往々有之現在及將來ノ取引上差支少カラズ此ヲ以テ業務保全ト世人ノ誤解ナカラシメン爲メ「巖」ト改名致度依之別紙戸籍謄本並ニ双方同業ヲ證スル書類相添へ此段願上候也

年四月七日 右願人

中野敬藏印

(211)

富山縣上新川郡長何某殿

大正十七年八月十五日生

第二例

改名願

何府縣郡（市）町村番地

武田太郎

右者何年何月何日前戸主晴忠死亡ニ因リ家督相續致セシガ當家ハ代々前戸主ノ名ヲ襲名致スペキ家憲ニテ之ヲ實行致シ居ル事蹟ハ別紙戸籍謄本ノ記載事項ニ依リ明瞭ニ御座候仍而前例ニ從ヒ襲名致度候間「太郎」ヲ「晴忠」ニ改稱ノ義御許可相成度此段奉願候也

何年何月何日

右願人

武田太郎

十年五月三日生

第三例

改名願

何縣郡（市）町村番地

甲斐文治

第一 日常自己の出入又は居合する處、或は同町村内又は同業者中に、同姓名の者、又は音訓相等しきものある時は、其旨を證するに足る書類並びに双方の戸籍抄本を添え、改名を願出づるのである。

第二 營業上又は家風として、代々先代の名を襲ぎ、或は其名の一字を用ゐんとするときは、家譜又は之が證據となるべき書類及び、戸籍謄本を添えて改名を願ひ出づるのである。

第三 僧侶となり又は還俗する場合は、師僧の證明書を添えて願ひ出づるのである。

第四 不敬に渉るが如く感せらるゝ文字を有し、恐怖の意より改名せんとする時は、戸籍謄本を添え願ひ出づるのである。

第五 幼名或は通稱を用ひず、實名を用ひては營業上、取引上不便を招く場合は、之を證するに足る書類並びに戸籍抄本を添えて願ひ出づるのである。

(212)

右者佛道修業志願ヲ以テ何郡何村淨土宗恩婆山高臺寺
住職土手野道哲ニ就テ得度式ヲ了シ其徒弟ト爲リタル
ニヨリ俗名ニテハ差支候ニ付「德本」ト改名致度別紙
師僧ノ證明書相添ヘ此段願上候也

何年何月何日

右願人

甲斐文治印

五年八月七日生

何縣何郡長何某殿

第四例

改名願

東京市麹町區上六番町三番地

御園嘉輝

右ハ皇室ノ尊嚴ヲ侵シ不敬ニ涉ルベキ名字ト認メラレ

候ニ付「清」ト改名致度此段戸籍謄本相添ヘ奉願候也

何年何月何日

右願人

御園嘉輝

二年六月九日生

東京市淺草區長何某殿

東京市麹町區長何某殿

第五例

改名願

東京市淺草區千束町三丁目十八番地

戸主

淡路太郎

甲斐文治印

五年八月七日生

右者前代戸主淡路新兵衛商業ヲ營ミ居リシモ去ル大正四年三月十日死去シタルニヨリ私儀家督相續ヲナシ同業ヲ繼續營業致居候然ルニ前代ハ戸主ノ氏名ノ頭字ヲ呼ヒ淡新ト稱シテ營業致居候ニ付現代ニ至リ現戸主ノ頭字ヲ撰ビテ淡太ト稱シ候テハ取引先ノ誤解ヲ招キ營業上不便不利甚ダ不尠候間「太郎」ヲ「新」ト改名致度戸籍謄本并ニ家譜相添ヘ此段奉願候也

年五月十八日

右願人

淡路太郎

明治二十年十一月七日生

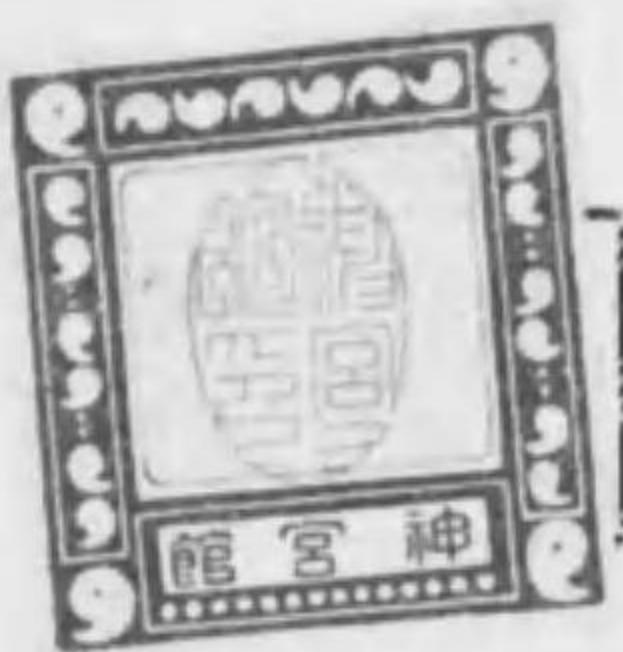
東京市淺草區長何某殿

昭和十年十一月一日印刷
昭和十一年十一月五日發行
昭和十六年二月二十日再版

定價金一圓
送料金十四錢

著作人兼發行印刷人木村茂市郎

東京市下谷區西町一番地



東京市下谷區西町一番地

印刷所 神宮館印刷工場

東京市下谷區西町一番地

發行所 東京市下谷區西町一番地
易書專門出版 神宮館

電話下谷一三一七番
振替東京一二〇七六番

●易學講義錄發刊に就て

●易學講義錄の特色

●吾高島易斷講研究所神宮館本部は二十有餘年來易學九星其他の占術に關する書籍の出版に從事し、些か斯界に貢獻する處ありしが故に、是迄屢々斯道熱心の諸君より次の如き質問に接した

自宅獨習にて易占術を學ばんとするに當り、順序正しく系統的に學習せんとせば第一には何の書、第二第三には何の書を

讀むを可とする哉

是れ至極尤もなる質問なれど、兎角獨學は偏見固陋の弊に陥り易きものなれば、縱令自宅獨習と雖も親しく講師に接して、その講義を聞くと同一方法を以て學習せざれば充分満足なる結果は得られない、それ故本館は前掲の如き質問者諸士に對し、その遺憾を深さんと欲し今回易學速成講義錄を發刊したのである

本講義錄は易學の大家大島中堂先生が自ら筆を執り一字一句苟くもせず、その該博なる識見を以て、經義、象法、筮法、占法等を平易詳細に講述したれば、初めて易を學ぶ人々も一度本講義錄を繰くときは、其身自から先生に親炙してその聲咳に接し丁寧親切なる講義を聞く思ひを爲すであらう。

●全部振假名付にて誰人にも読み易く其講義は丁寧親切なれば初學者と雖も容易く了解爲し得られ、恰も面當り先生に親炙して其講義を聞く思ひを爲すこと。

●東洋最古の哲理を知り自己修養の資となしてその人格を向上せしめ得ること。

●陰陽消長の易理を曉り、生活上の進退駆引の機を豫知し、福を轉じて福となし九死に一生を得、捲土重來自己の運命開拓に資するを得ること。

●疾病死、事業の成功失敗、争ひ事勝敗、遺失物、盜難、待人、走人、諸相場高下、其他人事百般の事を豫断せらるゝが故に、自己の運命は勿論のこと他人の運命をも良く判断なし得ること。

●本講義錄全部講習したるものには修業證を授與し、永く本館會員として優待すべし。

●本講義錄全部講習して易占業開業希望者には、本館門人名鑑にて開業免狀を授與すべし。

●易學講義錄規定

一本講義錄講習者は高島易斷講研究所神宮館本部會員の資格を有す、會費拂込其他に關する照會通信には必ず會員たるを明記する事、なほ返信を要する件は返信料を添ゆる事。一本講義錄は毎月一回發行し六ヶ月を以て完結す(目下全部完結せるが故に一時に會費全部拂込者には全部同時に送本す)

(形體書業修)

證

何 某

生 年 月 日

右者本會講習規定ニヨリ周易經義象法筮法占法ノ各科ヲ卒業セシ事ヲ證ス

年 月 日

神宮館本部

(形體書業修)

證

何 某

生 年 月 日

右者本館規定ノ試験ニ合格シタルヲ以テ第ヲ擇シ至誠神ニ通ズルノ域ニ達セシモノト認ム因テ本館門人名義ヲ使用スル事ヲ認許ス

年 月 日

神宮館本部

姓名による運命

特價金一圓

良姓名は良運命を造る説明及び自分で選名し又姓名の獨判断が出来る附錄に改名届手續名乗字引がある

易學百科全書

特價金一圓

各人の性質相性姓名學及び暦の説明家相人相手相淘

祝詞創作便覽

特價金一圓

宮術錢占ひ等を素人が手輕に調べらる良書である

戊申詔書新解

特價金一圓

農工商繁榮祈福旅行誕生結婚入學入營の祝賀疾病災厄除け招魂神葬祭其他神祭祝詞の作り方を詳記せり

家相方位秘傳

特價金一圓

家相學は住宅哲學にて文化的住宅と雖も其學說に基

御籤判斷書

特價金一圓

き原理應用により富貴長命子孫繁榮が得られる良書

大師御籤判斷書

特價金一圓

本書は各佛閣から頂いた、おみくじの吉凶を誰れに

畫相奧傳

特價金一圓

も判り易き様にカナ付で親切叮嚀に解説したる良書

惡い家相の直し方

特價金一圓

古來より秘密口傳とした人相學の極致を著者が多年

算木櫻

特價金一圓

掲げ、それを現代語にて註解を施したる良書である

算木

特價金一圓

実驗したるを百五十餘の圖解にて解説したる良書

算木

特價金一圓

家相が悪いと氣付いたら一日も早く直しなさい、其直し方は此本によつて良い家相にするが安全です

筮竹一ト組

特價金一圓

家相が悪いと氣付いたら一日も早く直しなさい、其直し方は此本によつて良い家相にするが安全です

區谷下市京東
地番二町西

神宮出島高元版

番七一三一谷下電話
番六七〇二一京東替振

終

